

廃棄物減量等推進審議会会議 会議結果

会議名	第4回木津川市廃棄物減量等推進審議会		
日 時	平成26年10月20日(月)午後2時から	場 所	木津川市役所5階 全員協議会室
出席者	委 員 ■…出席 □…欠席	■郡嶺委員(会長)、□浅利委員(副会長)、 ■石崎委員、■宗形委員、■山田委員、■伊原委員、■木村委員、 □戎崎委員、■立花委員、■水野委員、■中島委員、■新井委員、 ■石田委員、■近原委員、■福島委員、□森 委員、■山本委員	
	その他の出席者	京都やましろ農協木津支店長:上田氏、傍聴人:なし	
	庶務	生活環境部 駒野部長、金森次長 まち美化推進課 秋元係長、豊田係長、大西主査、田中主事 クリーンセンター建設推進室 山本室長	
議題	1 開 会		
	2 会長あいさつ		
	3 議 事	(1) 第3回廃棄物減量等推進審議会会議結果について (2) 審議事項 ① 生ごみ・堆肥を活用した農業関係者との連携について ② インセンティブを活用した持続可能なごみ減量化の取組みについて	
	4 その他の議題	(1) 報 告 ① ごみ減量化推進計画(もったいないプラン)の取組み状況について ② 地球温暖化対策実行計画の取組み状況について (2) 次回審議会の開催日程について 平成27年2月13日(金)午後2時から 木津川市役所	
	5 閉 会		

会議経過	事務局 (進行)	<p>それでは、失礼をいたします。定刻となりましたので、ただいまから第4回木津川市廃棄物減量等推進審議会を開催をさせて頂きます。委員の皆様方には、本当に公務お忙しい中、ご出席をいただきまして、篤くお礼を申し上げます。司会を務めさせていただきます、まち美化推進課の金森でございます。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>まず初めに、前回の審議会におきまして、生ごみの減量化等について、農業関係者の皆様方の出席をお願いして、そして議論を深めていこうと、そういうふたご意見を頂いておりました。本日は、JA京都やましろ農協木津支店、支店長の上田様にお越しを頂いております。</p>
	上田 氏	〈上田氏自己紹介〉
	事務局 (進行)	<p>上田様におかれましては、本当にお忙しい中、突然のお願いにも係わりませず、快諾を頂きまして、ご出席を頂いております。本当に篤くお礼を申し上げたいと思います。本日は、JAの考え方ということに係わらず、どうぞ個人的なご意見あるいはご発想も踏まえまして、忌憚のないご意見を頂いて参りたいという風に考えておりますので、どうかよろしくお願ひを申し上げます。</p> <p>それでは議事に入ります前に、まず最初に資料の確認をさせていただきたいという風に思います。座らせて頂きます。</p>
		<p>まず最初に、本日の会議次第でございます。続きましてNo.1、右肩にナンバーを振っております、第3回の審議会の会議結果（案）でございます。続きましてNo.2でございます。廃棄物減量等推進審議会の議事の流れでございます。続きましてNo.3でございます。生ごみ・堆肥を活用した農業関係者との連携について、でございます。続きましてNo.4、インセンティブを活用した持続可能なごみ減量化の取組みについて、でございます。そしてあと2つございますが、報告ということで、報告1、木津川市ごみ減量化推進計画の取組み状況というものになります。続きまして、報告2の地球温暖化対策実行計画の取組み状況という資料でございます。以上が資料の全てでございますが、皆様、全てございますでしょうか。もしなければ、举手お願ひしたいと思います。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。</p>
		<p>それでは、本審議会を進行するに当たりまして、皆様にお願い事項でございます。携帯電話につきましては、電源をお切りいただくかあるいはマナーモードに切り替えをお願いしたいと思います。また、本審議会につきましては、運営内規によりまして原則公開となっております。</p>
		<p>次に、本審議会の成立状況についてご報告をさせていただきます。木津川市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例施行規則第6条第2項の規定によりまして、会議は委員の半数以上の出席により、開催することができると規定をしております。本日は委員17名中、過半数を超える14名のご出席をいただいており、会議は有効に成立しておりますことをご報告を申し上げます。</p> <p>それでは、次に郡嶽会長よりご挨拶並びに議長としての議事の進行、よろしくお願ひを申し上げます。</p>

		<p>ので、それを点検しながら更に取り組むべきこと、そういう面では皆さん方のご意見が重点的な形での取組みという形の幾つかのテーマに絞られているような気がしますけども、それはそれとして、やはり基本的に皆さん方が関心をお持ちになっている、今回はそういう面でコンポスト、生ごみをどうやって減量化するかということを一つのテーマにしておりますけども、それ以外に、所謂インセンティブを付与しないと中々進まないということで、もう一つの議題がございます。まあそういう面で、全体としては資料の2を見て頂きましたら分かりますように、現状施策をしていくけども、その中で一応諮問の主旨としては、ごみの有料化も含めた形での望ましい減量施策の検討についてということを頂きながら、とりあえずそういう面から言うと、前のもったいないプランを更に充実するような形でそれぞれの更なるご意見を頂きながら、ごみの減量化施策を考えて参りました。</p> <p>その中で、取り組めるという形の中で、前回はリサイクル研修ステーションの役割・実績・課題と、それから推進員のくるっとさんの活用の仕方と言いますか、あるいは連携の仕方と、それからもう一つは、ごみの減量化を進めるためのインセンティブ等についてお話を頂きました。今回はその中で、より具体的な形で、生ごみ及び堆肥を活用した形での減量化のあり方、それから更なる領域におけるインセンティブを活用した持続可能なごみの減量化の推進について議論をしていきたいと思っておりますので、またいつものように忌憚のないご意見を頂けたらと思います。</p> <p>議論を始める前に、一つは、やらなくちゃいけないのは、皆さん方に配布をされていますものを、後でご説明を頂きますけども、その修正点があればということになります。それともう一つは、今回の審議会の会議録に署名の委員をお願いしなくてはいけない。私ともう1人、会議録の署名委員を指名しなくてはいけないということになっております。これはいつもの通り名簿順という形でお願いをしてますので、今回は伊原委員にお願いをしたいと思いますけども、よろしゅうございますでしょうか。</p>
委 員	員	はい。
会 長		<p>では、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それでは、今回のものについては伊原委員と私の方で署名をするということになります。もう一つ、資料の確認はしましたけども、公開は、全てこれは全部公開ということでよろしゅうございますでしょうか。</p>
委 員	員	異議なし。
会 長		<p>はい、そしたら公開とさせて頂きます。</p> <p>それでは早速でございますけども、議題の方に入りたいと思います。先程も少し入っておりますけども、議事として、(1)になりますけども、第3回廃棄物減量等推進審議会の会議結果についてということで、確認の意味も含めて、前回の会議結果の要旨について、事務局の方からご説明を頂き、それから詳細なものについても配られておりますので、これに修正点がありましたら、次回の審議会までに事務局の方へお願ひをしたいと思います。</p> <p>そういう面で、まずは前回どういう議論をしたのかということにつきまして、事務局から資料1と資料2を使って、ご説明の方よろしくお願ひしたいと思います。</p>
事 務 局		<p>事務局説明省略 (No.1 : 第3回廃棄物減量等推進審議会会議結果 (案)) (No.2 : 廃棄物減量等推進審議会の議事の流れ)</p>

	会 長	<p>はい、ありがとうございます。前回の第3回の審議会での審議内容、それから今回、それを踏まえた上でどういうところを中心に議論をして頂くかということについて、事務局の方からお話しを頂きました。第3回のものにつきましては、先程申しましたように、既にそれが文章化されておりますので、それぞれの皆さん方の発言をされたであろうと思われる所の中で、主旨が違つておりましたら修正をして頂きたいと思いますので、次回の審議会までに事務局の方まで申し出を頂ければと思います。何か、今の事務局の説明につきまして、ご質問なりあるいはご意見等ございましたら、よろしくお願ひしたいと思いますけども。よろしゅうございますか。はい、そしたら、これは確認に近いと思いますけども、確認ということで引き続き皆さん方の修正点があれば、申し出の方をよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それでは、本日の審議内容の主なものになりますけども、その①として、前回からの引き継ぎとして、生ごみ・堆肥を活用した農業関係者との連携についてということで、これも事務局の方に資料3として資料を用意して頂いておりますので、まずは資料の説明をして頂き、そしてそれに対する質疑をしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。それでは事務局の方、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
	事 務 局	<p>事務局説明省略 (No.3 : 生ごみ・堆肥を活用した農業関係者との連携について)</p>
	会 長	<p>はい、ありがとうございます。 いくつか、そういう面から言うと、他の所での生ごみのリサイクルの取組みについての事例を調べて頂いてますので、これも一緒に生ごみのところで紹介頂けたらと思いますので、その点の紹介もよろしくお願ひしたいと思います。</p>
	事 務 局	<p>事務局説明省略 (No.4 : インセンティブを活用した持続可能なごみ減量化の取組みについて) (取組み事例)</p>
	会 長	<p>はい、ありがとうございます。 ここに記載していただいた他にも、いま千葉市の事例が出ましたけども、京都市でも、伏見区を中心にモデル地域で生ごみだけを分けて、そこから同じようにバイオガスを作っていくという形の施設が動いております。それをどう今後、伏見区全体へ広げていくかというのは、ある意味では京都市の課題ではあります。 それからもう一つ、水口、滋賀県か三重県かそっちの方だったと思いますけども、滋賀県ですかね、水口の方で、民間の業者が家庭から、市の助成を頂きながら生ごみだけを集めて、そしてそれを堆肥にして、そして希望する市民の方々、あるいは余ったものを市に買い上げをしてもらうという形で、民間を活用したような形での、民間のコンポスト業者と言いいますか、堆肥業者を活用した形での仕組みが動いております。 それから長井市のレインボープラン、これは元々は上の明治大学と同じように、早稲田大学及び早稲田大学の近くに早稲田大学の商店街がございますけども、こと一緒に協力をして、早稲田の商店街から出てきた、あるいは早稲田大学から出てきた生ごみを長井市へ送って、そしてコンポストにしてもらって、そしてそこで野菜が出てくる。その野菜を早稲田の商店街に送っていただいて、そこで販売をするという形も以前は試されておりました。それが段々段々、こういう形で、循環の輪が市のを中心になってる形の書き方になつてますけども、そういうことも依然として恐らく試されていると思いますが、早稲田商店街の</p>

		<p>○○さん達と一緒にやっている仕組みの中で動いているものもございます。</p> <p>従って、ここで我々が議論しなくてはいけないのは、確かに個人として、個々の家庭で取組みをして、コンポストなり生ごみの減量化をするということも重要なことでございますけども、なかなか個人でやるということになれば、コンポストの施設をどうするか、それから出来たやつを、特にマンションなんかに住まれている方だったらなかなか、マンションの広い方であればプランターでの栽培という形で個人的にできるかもしれませんけど、なかなか個人でできない。そうすると、それを社会的なシステムとして、誰でもがそれに参加できるという形での社会的なシステムにどう広げていったらしいのか。その中で、特にコンポストの場合には、作る方よりも出口の方が非常にネックになっております。</p> <p>今までにこのコンポストのブームというのは、ご承知の方もいらっしゃると思いますが、昭和30年代の終わりから40年代がかなりブームになりました、各地方自治体が堆肥化センターを作ったんですけども、いずれもそれ失敗しまして。その失敗というのは、なかなか出来たコンポストがその当時の化学肥料に比べると成分が弱いということで、農家で引き受けさせていただくということが非常にできなかった。これは佐賀市でもそうなんですね。佐賀市なんかもそれを作つてやりましたけども、佐賀市はそれを農業ではなくて、あの時は果樹園だったと思いますけども、そっちの方へ運んだんですけども、それでもなかなか捌けなくて、結局は需要が無いために、結局は費用だけがかさむということで、全国でコンポストを冠する施設が一時ブームであったにも関わらず、失敗をしております。</p> <p>そういう面から言うと、それも基本的には社会的なシステムとして、どういう風にこれを育てていったらしいのか、そのためにどういう人たちが関わったほうがいいのか。そのために今日、恐らくその関わりのきっかけを持つであろうJAの方々にも来ていただいて、忌憚のない意見を頂きながら、意見交換しながら、木津川市の場合どう進めていったらしいのかという議論をしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。どなたからでも、よろしくお願ひします。では、○○委員から。</p>
委 員		<p>ちょっと予定ではなかったんですけども、事務局の方から、JAと連帶した生ごみ堆肥循環システムということで、木津川市案ということでなされたんで、大変評価しておるんですけども。</p> <p>まず私の考え方として、生ごみ対策無くしてごみの減量はないと考えております。そういう意味でこの木津川市案、ちょっと軽く触れられたんですけども、事業主体が市、JA、事業所ということで書いてはるんですけども、具体的に木津川市案ということですので、市だけと違って、今日来ておられるJAさんとか事業所ですね、その辺の討議とか、その辺を大分されたと思うんですけど、その辺の結果、ちょっと報告願つたらありがたいと思います。以上です。</p>
事 務 局		<p>すみません、まだ素案でありますので、まだ込み入ったというか、中まで入っての話はしておりません。</p>
委 員		<p>はい、分かりました。僕からの質問でした。</p>
会 長		<p>議論したらという形の、こういう形で考えたらいいんじゃないかという議案として出しているということですね。</p>
事 務 局		<p>そうです、はい。</p>
会 長		<p>だから、具体的にこれで動くかどうかということとか、そういうこととか、</p>

		それぞれの役割、それから問題点についての整理をされた上で出されているというわけではないですね。
事務局		ではないです、はい。
会長		はい、分かりました。そうすると、一応こういう形を市は考えてるけども、皆さん方のご意見をいただきながら、場合によってはより良い方向へ、場合によってはこれよりもっといい方法があるよということであれば、あくまでもこれはこういう考え方があるという形で考えていただいて、議論をしていただけたらと思います。 他にございますでしょうか。はい、どうぞ。○○委員。
委員		<p>失礼いたします。木津川市さんの方の資料に載っているようなこと、私最近体験をいたしましたので、ご報告なりをさせていただきまして、一つ何かの参考にしていただいたらと思います。まず東京都足立区の取組みですけども、この小学校とのNPO団体の取組みということで、ここに事例をいただいておりますけども、私はちょっと見学なり行つきました。ご報告がてら、このようなものもやっておられるということを報告させてもらいます。</p> <p>まず京都府の長岡京市の方の第4小学校の方の取組みなんんですけども、ここは低炭素ということで、いわゆる地球温暖化防止の観点から、いわゆるCO₂の削減、学校のコンポストで生ごみを処理するという取組みを行つておられます。これは今年の低炭素杯の2014最優秀の次世代賞ということで、非常に全国的に有名なことで取組みをされておりまして、表彰をされております。これにつきましては、いわゆる生ごみを学校へ持つて行っていただきます。これは水気を切つて、学校の方へ持つて行って、学校の校長先生が担当らしいですけども、そこで生ごみを堆肥化、学校でやっておられます。で、堆肥したものを野菜作り、あるいはそういう植木の花、栽培ですね、そういったものの堆肥として利用されておりまして、それを給食で作つておられます、その肥料で。で、給食で皆さんが、給食のいわゆるおかずと言うんですか、野菜の利用ということでやられておりまして、非常に、生ごみ100kgということで、燃やすことで、これはCO₂が62kg出るらしいです。で、そこで1tを集めるということになりますと、620kgのCO₂を削減できるという目標を立てまして、やっておられまして、もういよいよ3年目らしいですけども、1tに近い生ごみを集められるということで、620kgの削減をされるということを聞いております。</p> <p>で、やはりこの時に、生ごみの堆肥ですけども、これは日本の場合は非常に湿度が高いということがありまして。ヨーロッパなんかでは非常に湿度が低い、だから乾燥があるので、水分が少しあつたかて非常に乾燥してごみは堆肥化しやすいということになっておりますけども。このことにつきましては、私も実験つちゅうんですか、家の方でやつたんですけども、いわゆる牧場から直接、いわゆる堆肥つちゅうんですか、牛舎の牛糞を持って帰つたんですけども、買つてきたんですけども、そしたらその非常に湿度が高くて。市販の牛糞の堆肥なんかは非常に乾燥されて、なっておりますけども、そういう牛舎のものを直接持つてきはりますと、逆にそこで蛆なり虫が湧いて、農作物に影響等が出ました。だから水切りの徹底ですね、これは非常に生ごみ堆肥をする前には必要という風に学校の方もおっしゃつたので、その辺のことの取組みっていうのか、そういう啓蒙啓発をしなくてはならないという風に思います。</p> <p>それからもう1点、これは私の実験をしたんですけども、プランターに同じ大きさで同じ量の土を入れまして、米ぬか、生ごみ堆肥、それから油かす、そして化学肥料、全く土の入れない畑の土そのままという条件で、管理は同じ条件でもつてやりますと、やはり1位2位は、これはもう明らかに生ごみあるいは</p>

		<p>は米ぬかで、これは小松菜でやったんですけども、よく取れます。で、3位が油かす、4位は化学肥料ということで、成長が非常に悪く障害も出て、また病気も出たと。で、この化学肥料につきましては有機入りではなくて、ガラの化学肥料を利用してやったんですけども。だから生ごみや米ぬか、その辺につきましての、いわゆる効能があるということをやはり住民の方々に知らせて、こういう堆肥化に向けてのそういういた指導というんですか、そういう説明をしなくてはならないという風に思っております。</p> <p>それから最後ですけども、こういったことを事例的にこれ出していただいておりますけども、やはり1回我々委員が、まずこういう実際にやっておられるところの見学、これを一つよろしくお願ひしたいと思います。以上です。</p>
会 長		<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>実際にやられたこと、それから長岡京市の事例についてお話をいただきました。基本的に長岡京市、先ほどおっしゃったように、これはCO₂の関連の中で、CO₂の削減のためにという形で取組んで、ごみの減量化そのものではないということですね。つまり言い換えると、本来は生ごみというのは、これは生物由来のものですから、CO₂の削減量に入らないんですね。それがまた元へ戻って吸収されるということで。ただ実際に都会では、それを焼却をしてCO₂を出しているということですね。焼却を減らすことによってCO₂が減るという形で、ごみの問題と関わってやられてる。</p> <p>もう一つは、良いのは、そういう形の中で、それを自分のところの小学校で野菜を育てて、その野菜の成果を子供たちに還元をされるという形で、自らがそういう形でごみの減量化することが、給食における野菜として成果をあげているという。そういう面から言うと、CO₂見える化をしたと言った方がいいのかもしれませんけども、そういう形の中で、環境教育の一環としても良いシステムだと思います。そういう面で、この事例は全員に協力を求めるのか、あるいは小学校という形を求めるのか、場合によっては、この場合小学校でのコンポストの中に、場合によっては給食から出てくる生ごみだけではなくて、そういう家庭からのを持ってきて、そのところで小学校単位の中でコンポストをするという、より小さな循環の輪を作るというのも、一つのスタイルとして考えられるということの事例だらうと思います。ありがとうございました。</p> <p>他にございますでしょうか。色々な事例の中で、どういう風な形で、どういう人たちが関わったらいいのかという形の中で、様々な関わり方があると思いますので、是非ともご意見なり、あるいはご見識の方をご披露していただけたらと思います。</p> <p>なかなか、JAさんのご協力を得るといったとしても、家庭からのごみをそのままコンポストにはできないんですね。一番大きな問題というのは、生ごみの中に色々なものが入ってしまうとせっかくの畑がごみ捨て場になりますし、一番大きな問題は、生ごみといつてもいわゆる調理くずだけだったら良いんですけども、その中に塩分を味付けされると、塩分がそのまま畑に土の中に入ってしまうということになって、非常に塩害というようなこともありますので。そういう面では、水切りであるとか色々な、それぞれがやった上で、初めてそれがコンポストになってくるんだという形をつけていかないと、なかなか難しいものになってきます。</p> <p>そういう面で、市民の意識が高ければそういう形で協力が得られると思いますけども、そういう面で、どういうシステムを作れば一番良いのかという形の中での議論になるだらうと思いますので、是非とも忌憚のないご意見をいただけたらと思います。</p> <p>はい、○○委員。</p>
委 員		すいません、連續して質問してなかつたんですけど、今回提案になります

		<p>でね、木津川市の案ということで、素案や言うことで、これからしっかりとやつてもらわなかんなということなんんですけども。</p> <p>これ事前に家で資料見てたんですけども、十分には考えてないんですけども、まず直感的に、市民からコンポスト等で生ごみ処理って、これ私のところもコンポストやっておりますけどね、当然コンポストのやつを、これを持っていくというかね、この辺はちょっと無理やないか。むしろ事例でありますように、ごみ集積場所とかいうとこにね、どっかにその生ごみを持っていくと。まあ回収していただければ一番良いんですけども、一定、そういう生ごみの集積場所を何箇所ということで持っていくような形で考えたらどうかなと思います。</p> <p>それから、それに関わりましてですね、全部でやろうということはなかなかしあんじいことですので、加茂地域だけとか、山城地域だけとかいうことでね、そういうような地域的な社会実験で進められたらどうかなと思っております。以上です。</p>
会 長		<p>ありがとうございました。</p> <p>おっしゃるように、一つは、一斉に何月何日からという形で全市域的にやるというのは非常にこれは、地域によっての、あるいは市民によっての温度差も、意識の差もありますので、そういう面から言うと、できるだけモデル地域を作つてやつていくという形で導入してはどうかという。</p> <p>それから回収、これは各戸回収という形で、今までの分別の中に生ごみだけを分別をしていくという形になるのか。これは今のところ、外国ではそういう生ごみだけを回収するというシステムはありますけども、ドイツであるとかスウェーデンなんかでそれをやってますけども、日本ではまだ生ごみだけを分けてというのは、小さなところではありますけども、大きなところではありません。都市ではありません。そういう面で、各戸回収という形まで踏み込むのか、それともいま〇〇委員がおっしゃったように集積場所を作ると。集積場所もちゃんと管理をしてないと、ごみっていうのは、ごみがごみを呼ぶという形、分別してる人の中に分別しない人が一緒に入れてしまうと全体が使えなくなるというようなことがありますので、集積の時にそこでのごみの質を管理するというためのものが、一つ必要だらうと思います。</p> <p>それからもう一つは、そういう集積場所があった場合、どこに集積場所を作るかですね。特に夏場になりますと腐ってきますので、私の近くに集積場所を作つてもらつたら困るというようなものもでてきたり、回収がちょっとなかなか難しい時には、先ほどお話にあつたような蛆虫が湧いたり、きっちつと全部取つてないと、ちょっとでも取り損なつたものからそういう形のものが発生するというような形がありますので、そういう面での集積所の問題というのも一つ考えながら、どういう形の案が良いのかということを考えていかなくてはいけないだらうと思います。</p> <p>そういう面から言うと、最初は全部はできないので、モデル地域からでしょうね。しかもモデル地域の人たちにインセンティブを与えるために、ここでは商品券交付って書いてありますけども、協力した人に生ごみと引き換えに野菜が買える何らかの、あるいは割引券みたいな形でその野菜を買う時にはその割引券が効くよと。それはコンポストの元を協力という形でやつたので、という形でインセンティブを与えるというようなのも一つ、ありだらうと思います。そういう形で考えていくというのは一つあるだらうと思います。木津川市の案を前提にすれば、そういうことの問題というのは、少しづつ改善はされるような気もします。</p> <p>これは木津川市の案では、そういう面から言うと、家庭がコンポスト化するんですね。それをJAに引き取つてもらうという、持ち込みをして引き取つてもらうという形になつてるんですね。しかしJAにしてみれば、いくら良いコンポストといつても、質の悪いものということになつたら大変なことになると、</p>

		<p>ここいらはJAさんどうお考えになってるんでしょうか。何でもかんでも押し付けられたら、という忌憚のないご意見をいただけたらと。</p>
上田 氏		<p>それでは、初めて寄せていただきまして、ちょっとまあポイントもずれともかも分からんねんけども、2、3ちょっと思ったのは、まず一つは、まず目に付けてくれてはるのが、木津の花野果市という場所がございます。だいたい今170名の会員さんおられるんですけども、あくまでこれ今のところ、木津川市でございますけども、あくまでも旧の木津町の農産物に関わってると。で、例えば山城町であるとか加茂の組合員さん、これは組合員さんという表現を取らせていただくんんですけども、その方については今現在出してもらってないというような状況でございます。</p> <p>で、ここその直売所とかね、そういうところで販路とかまた利用していただいたらいいんじゃないかなという形の、これ簡単な図にしておいていただいとったんですけども、例えば農家がね、何名かご存知やと思いますけども、必ずしも堆肥ってのをあんまり入れられないんですよ。まあ農家の場合は、自分とこの場であるとか、肥料とか家庭にあるものっていうのを大体入れられると。何年か前、10年ぐらい前ですけども、水菜を京都府が進めようかということで、大々的に水菜を作させていただいたという件がございます。その時には、例えばハウスの中の土作りということで、大変堆肥を入れていただいたという件もございます。この堆肥につきましては、JAの取り扱う市販業者の方から仕入れさせていただいたものを利用していただく、という販路をさせてもらつとったんです。水菜も、もう10年ぐらい前から茨城県が今全国一の生産量でございますので、京都府の伝統野菜ということで、かなり京都府も水菜に関しては力を入れないとな、という状況でございます。</p> <p>農家も、先ほど申しましたとおり、堆肥はそんなに入れられてないんですよ。水田、水稻農家ですね、お米を作られている農家についてはやっぱり糞とかそういう。堆肥っていうのは基本的に体力づくり、人間で治癒力といいますか体力づくりですね。堆肥を入れたからゆうて、田んぼの肥料を入れなくとも良いよとかそういうものじゃないので、あくまでも人間で言う体力づくり、そういう感覚で利用されておりますのでね、あんまり水田には上手く利用されないと。それじゃあ畑はどうやというてきよったら、例えば、私の知ってる限りですよ、茶園であるとか、果樹農家に対してはね、入れられたら良いと思うんですよ。でもね、虫が、鉄砲虫という虫がいるんですね。結構これ虫で、茶園もそうですし、果樹関係ですね、やはり病気が発生しやすいんですよ。ですからあんまり堆肥を、例えば果樹農家に入れていくとかね、いうのは少ないと思うんです。</p> <p>で、京都の亀岡にございますけども、バイオテクノロジーセンターでしたかね、これ八木町です。ここは南丹市が牛糞であるとか、これは牛の本場ですね、その辺八木町ですので牛の生産農家多いので、牛の牛糞と糞とか、たぶんご存知やと思いますけど、おがくず入れたりそういう堆肥を作って、それを水田農家に還元するという形の取組みもされておるんです。これはあくまでも牛糞に対しての、糞尿ですね、そのそういう取組みをされているという風に聞いとるし、また京都市の街路樹の関係、たぶん先生もご存知や思いますけど、京都市あたりはJA京都中央さん、京都市内のまわりの農協ですね、向島とかあと大山崎、乙訓、洛北、その辺の農家でやっとるJA京都中央っていうところは、京都市の街路樹のチップだけですね、あくまでもチップだけを、木を切ってそれを袋詰めして、また農家に売られてっていうような、チラッという話も聞いたことがあります。</p> <p>ですからね、私何言いたいねや言うたら、そんなに堆肥を作っても、たぶんこの木津川市の中ではね、そんなに捌けへんのじゃないっていう気がするんですよ。これは本当に今日初めて寄せていただいて、大変失礼やと思いますけども、どんどん例えば久御山町とか向島とか、同じやましろの中でも、あそこら</p>

		<p>は野菜の本場地帯でございますのでね、結構ほうれん草とか小松菜とか、ようされるんですね。で、畑の場合は結構入れられたら良いと思うんですけども、水田に対して、まあそれはPRが悪いのか、農家が自分たちで手前で利用されるとのつからんねんけども、あんまり堆肥というのはほとんど木津川市の中で、今の私の知ってる農家の範囲では、そんなに使ってないのかなという状況なんです。</p> <p>ですから、もちろん、すごい大きい問題やと思いますので私がどうやないんですけど、ものは作るのは、例えばこれハコモノですのでね、どうでも補助事業でなんぼでもやってくれと思うんです。でも、その捌け口をどういう形で本当に捌いていくかというところが、僕はちょっと、今日の会議で初めて寄せていただいてちょっと思つたのは、どうやってそれを捌くのかなというのがね。当然、家庭菜園とか新興の方とかですね、当然利用していただいたら良いと思うんですけども、そんなん使う量って知れていますわ、本当にもう。ですから、やはり大量的にそういう施設作っていったりとか、また要る関係、補助事業なり、なんぼでもハコモノできると思うんですけども、やっぱり最終的にはどういう形の、堆肥化したものを捌くというのが一番大きな問題かなって自分は思っています。本当、初めてで失礼しますけど。</p>
会 長		<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>先ほど話しましたように、昭和30年代も結局つぶれたのは、捌け口がなかったっていうことなんですね。しかもそういう中で、いま上田さんの方からお話をいただきましたように、まず堆肥化と言っているから、肥料作りじゃないんですね。言い換えると、土作りとおっしゃりますように、土壤改良剤としての意味はあるということで、栄養分は別にまた補給をしなくちゃいけないということですね。</p> <p>それからもう一つは、家庭からの生ごみになると、何が入っているか分からない。品質がばらついているわけですね。それから先ほどおっしゃったように、チップとか、いわゆる剪定くずですね。これはもう大体、街路樹を切ってきてという形の中でやりますので、非常にものが知れていると言いますか、元々の素材が非常に安定的でまた分かってるということで、安心してチップにして使っていけることがある。ただ、家庭までになってくると、何が入ってるか。ましてや、季節的な調整が必要になる。夏になるとスイカなんかを食べて、生ごみはだいぶん水分を含んでくると。そうすると、水分をなんとか調整しないと蛆虫が湧く、という形の中で、水分調整、成分調整、そちらが非常に、実際に畑に入れようとすれば、非常に困難になってくるという事情というのが存在することなんですね。</p> <p>だからこれを何らかの形で、先ほどおっしゃいましたように、家庭菜園なり、あるいは1坪農園であるとかそういう形で、自分のところで食べるものについて、こういうことの努力をするというのは、ある意味では、捌けていくだろうと。だから、そういう形で畑を貸してくれるかどうか、という形が非常に重要な問題になってくるということでの提起でもあります。</p> <p>だから先ほどおっしゃったように、確かに八木町のレベルにおいても、先ほどおっしゃいましたように牛糞とかそういうものまでで、千葉市方式ですね、いわゆるまずはメタンガス発酵をさせて、そのメタンガスを利用すると。しかしその中で、残渣としてそういう牛糞であるとか生ごみの有機的な汚泥ができます。それをなんとか入れていこう、という形での活用の仕方ですね。それがだいたい八木町であるとか、そういう所でなされているということあります。有機性の資源の活用の仕方ということになるだろうと思いますけども。</p> <p>京都市がそれを取り組んでますのは、ご承知のように、バイオマстаウン構想というのが農水にありまして、それに乗つかかろうということで、木質系、それから廃棄物系のバイオ関連のものを、何らか有効に活用していこうという</p>

		<p>形の中で、京都の場合にはバイオマスという形で生ごみを繋げてるということあります。だから、そういうビジョンを持っていかないと、一つ、ということになります。そういう面から、何らかの形で循環型を、生ごみを中心の循環社会を作っていくという形のビジョンを、何とか木津川市全体で市民とともに作り上げていこうと。そのための社会システムについてどうするか、という形の中でのものだろうと思います。</p> <p>いかがでしょうか。はい、どうぞ。○○委員。</p>
委 員		<p>ちょうど今から15、6年前なんですけども、コンポストが下火になって、札幌市がやってる方式っていうのが雑誌等で紹介されたので、それを見に行つたんですけども。</p> <p>札幌市の北部の工業団地の一画にそのシステムは作られてたんですけども、それは運営してるのは民間がやってまして、それで札幌市の生ごみの収集は市がやってました。で、それを集めてきて一ヶ所に入れて、それであのキルンですね、セメントを焼成して作るときのあの横になるようなキルンんですけども、あれと同じような方式を使って、その中に押し込んでいって加熱してガスを蒸発させている。出来上がったものは粉碎して肥料ということをしているんですけども、そこで問題になってたのは、その出来た肥料が果たして肥料の基準を満たすかどうかという問題があって、農林省とだいぶ掛け合ったとのことでした。で、一応その辺は認定があったんですけども、製作の過程で、例えばホチキスで留まってたものがくっついてたり、割り箸が入ってたりとか、爪楊枝が入ってたりとかいう形で品質化していかないという事と、それから、これどういう風にして売るのかなという話で。その時ちょっと議論したんですけども、中国へでも輸出しない限りちょっと難しいんじゃないですかと。すなわち、中国はこれから人口がどんどん増えるところに、食料が大変問題が深いだろうから、アメリカから一所懸命肥料がどんどん、化学肥料が入り込んでますけれども、至る所にきずがあるような、いわゆる後出しで言いますか、いわゆる土地が非常にある意味では固くなってしまう。そういう意味では、肥料的な、堆肥的なやつが必要ではないかと。そうではないかな、とそこでちょっと議論したことがあったんです。で、そういうのでまあ、それからどうなったのかはちょっと私、追跡して記録に調べてないんですけども、最近出てきたのが、先ほど先生が言われましたバイオマスですね。こういうものを作るようなシステムを、中国や、あるいはベトナムとかそういう発展途上国のことへ、今輸出しようとしてるっていうのは、これも一つの方法じゃないかなと思います。</p> <p>で、この資料が書かれているような形、もしくはあるとすれば、例えば道の駅みたいなところで売るとか、あるいはそれに興味を持つ人がまわりに集まってやるような具合でしか、難しいんじゃないかなという気がします。以上です。</p>
会 長		<p>ありがとうございます。</p> <p>ずっと堆肥を、コンポストとして生ごみの活用しているというのはヨーロッパに多いんですけども、ただ堆肥は、大量に一時的に必要なんですね。つまり言い換えると、冬から春先にかけてまた農業をやる時に大量のコンポストが必要になってくる。その時に必要なだけのコンポストがあるかどうか、つまり言い換えると、生ごみはずーっと比例的に出てきます。だからコンポストはそのままできるんですけども、必要な時にまでそれ、溜めておけないんですね。という形があって、そのために大量に必要な時に、それだけの生ごみが堆肥化されているかどうか。言い換えると、需要と供給のマッチが上手くいかない。そこでどういう事を考えるかといったら、先ほど○○さんがおっしゃったように、それだったらキルンに入れて乾燥させて、乾燥の堆肥を作る。これはスウェーデンなんかではカプセル化するんですね。カプセルの中にそういう乾燥したコンポストを入れて、そしてスウェーデンの場合には、あそこは農業ができ</p>

		ませんので、どちらかと言うと林業が多いですので、ヘリコプターで上から林業として、即効性ではなくて遅効性の形での肥料として撒いていくという形をやって。ところがオランダなんかになると、これも大量にできませんので、リキッドフィーリングと言いますけども、液体化していく。コンポストを液体化して、液体として利用するという形で、バキューム車と同じような形で、消防車でも良いんですけども、液体にしたコンポスト液を春先に撒くというような形でやっている。リキッドフィーリングについては、これは今やってるかどうかは分かりませんけども、私が経産省と関わったときに、補助金の関係で審査をしましたけども、あそこ何ファームって言うんですかね、伊賀の方にあります大きな…。
事務局		モクモクファーム。
会長		<p>あ、モクモクファームですね。あそこが山崎製パンから出てくる、パン屋さんもこれも長持ちしませんので、かなり大量の要らなくなったりパンくずがあるんですね。それを上手くリキッド化しながら、豚のエサとしてという形の中に、リキッド化をして混ぜて使うというような事の工夫をやってた、という形から言うと、なかなかそういう面で、本当に農業の中に入れていくとすれば、農業のシステムそのものを、それこそ変えなくてはいけない。春先になつたら大量の、そうすると体力的に大変な問題になります。そういう面でかなり思い切った考え方を、もしも木津川市システムとして作っていこうとすれば、大掛かりなものになってくる感じがある。だから、そういう面から言うとこの近くに、八木町のやり方、それと水口のやり方、それから今言ったモクモクファームの、それが今やってるどうか分かりませんけども、先ほど○○委員がおっしゃったように、見学をさせてほしいという形が出てたと思いますけども、そういう面から言うと、そういう所が場合によっては参考として、この近くでも見れるという可能性は存在すると思いますけれども、さらに皆さんのお意見を頂きたいと思います。</p>
		<p>通常はそういう面から言うと、生ごみを、産業廃棄物施設にはロータリーキルンがありますので、今までセメントを作っていたんですよね。スウェーデンなんかでも、セメントを作っている中でかなりの公害が出ますので、それを止めて、その余ったキルンに乾燥の機能がありますので、生ごみで乾燥させるというような形の中で、堆肥化したやつを乾燥化させて、カプセル化して、いわば林業に使っていくという形の仕組みを作ったという形になります。</p>
		<p>そういう面から、産業廃棄物関係を利用するのか、それとももう一つは、ここにありますように、明治大学の農場だったですかね、そこに入れるように。将来的には京大の農場が来るんでしょ。違うの。恐らく農家よりもむしろ、そういう京大の農場で、明治大学の仕組みと同じような形のあれで話し合いをして、その中で準備をこっちの方でやりながら。京大いつ頃に来るんですか。事務局、分かりませんか。そういう風に伺ったような気がするんですけども、いかがでしょうか。違うのかな。</p>
事務局		ちょっとまだ明確な時期は、まだ決まってないです。
会長		<p>その一つの可能性は無きにしもあらずですよ。だから、明治大学方式みたいな形でやってもらって、実験のための資料を木津川市が提供するという形で、生ごみの一つはそういう形の方が、もしもやりましょうということであれば、京大が言ってくれれば、こういう形っていうのは結構、一つの核になってくれるという可能性がありますので。ちょっとJAさんには、そういう面から言うと、あまりにも課題がまだまだ多すぎるという話で。</p> <p>他に何かご意見ございますでしょうか。こういうアイディアだったらどうだ</p>

		<p>というようなものも含めて。</p> <p>基本的に協力してもらえる所に、受け入れてくれる所、コンポスト化してくれる所に材料を提供する。その代わり、材料を提供するけれどもタダじやなくて、そういう割引券なりあるいは地域通貨みたいなものを入れて、そしてそれを最終的に成果の上がった野菜というものを買うができるということになれば、インセンティブの付いた形で動きますので、そこはそういう形でやれるだろうと思いますけども。生ごみを供給する側についてはインセンティブが働き、またその野菜を買ってもらえるということはありますけども、それを受け入れる所の肝心の農協なりそういう所に何らかの、それを受け入れてまで農業をやるというインセンティブは働かない、むしろ鉄砲虫が出たり色んなことがあるという事ですので、その所をどうやってクリアしていくかという中で、どういう質の良いものを作ってもなかなか捌けない、ということなのかどうか。そこいらをご意見を頂けたらと思いますけども。</p>
委 員		<p>まあ確かにコンポストというのは、ちょっと見てたらありますけど、あれは使くてはりませんのか。</p>
会 長		<p>いや、家庭菜園としてはなされているでしょう。だから家庭菜園の中に入れるという分にはあれなんですね。だから自分で作った、問題はそうなってくると、自分の所で、例えばマンションに住んでて、ということによってはそれを作っても……</p>
委 員		<p>マンションの話せんとね。今、JAさんが言わはったように……</p>
会 長		<p>いや、全部に広げるという形を前提にすれば、その所の人たちのことも考えてやらなくちゃいけないですからね。おっしゃるように、そこはもうもつたいないんだから、もう止めようという形で、一部の人たちだけでやっていくという形ですね。それに限るのかどうかですね。</p>
委 員		<p>マンションの人はあまり考えんと、他の人を考えたらええのちやうかな思うんですよね。</p>
会 長		<p>という事は、土地を持ってる人ですね。</p>
委 員		<p>そういうことです、はい。</p>
会 長		<p>それがどのくらいいらっしゃるかですね。庭を持っておられて、そういう家庭菜園向きなり、あるいは花を育てるという事が。その意向を聞かないことは、土地持っているから必ずしもそれで生ごみを堆肥化するとは限りませんので、そうすると、そういう形の中でどれだけの人が協力してくれて、それによってごみがどれだけ減るかという形を見ていかないと、一生懸命やっても効果が、全体としてはそんなにごみを減らす事にならないよという事になれば、提案としてはあまり、全体的な意味というのは無くなっています。</p>
委 員		<p>いや、私も初めて今年から出てるんですけどね、地域長としてやっぱりこれ、ごみ集積所自体もみんな嫌がられるだろうと。そういう時代でね、いまJAさんも言われたように、使わはる人がおられないのに、それでまた集積所自体を作っても、そないなんどこで作ってええか分かりませんよ。もう近所やったら、絶対嫌がられますわね、もう臭いし、夏は。そういうような環境の中で、そういうような話を進めていったかてね、前に進まへんのちやうかなと。</p>

	会長	それをどうしないと。
	委員	違う。もうちょっとその、環境が悪過ぎますやん。その生ごみを利用するちゅうようなんのね。で、やっぱりこれ、コンポストが一番私はええと思うねんけどね。その推進で、何とか生ごみを減量するっちゅう。
	会長	うん。現実にはそれ……
	委員	それは失敗やったて、前、会長が言うてはったけど。
	会長	いや、失敗と言うよりも、コンポストをやっても必ずしも利用するというよりはもう、ほとんどいま利用されているというか、普及してるんですよ。それにさらに普及をさせるということが重要なことで。つまり言い換えると、前の時の議論は、コンポストの中に機械式のやつとそれから普通のやつとあって、その機械式のやつが結局水分だけを飛ばすだけでということで、それに対して……
	委員	それを発明するのに時間かけるか、お金かけたらええんとちやいますか。
	会長	うん、だからそういう形で、コンポストについては未だに助成をやられているんですよね。そういう面から言いますと……
	委員	してはりますね、まだコンポストはね。
	会長	はい、やってますから。それで……
	委員	そのPRさえ上手い事したら、もっと増えると思うねんけどね。家庭菜園だいだい増えてますねんけどね、世間見てるとね。
	会長	という形ができるのかどうか。まあ、その割には、まだまだ生ごみは沢山出るんですよね。そういう面から言うと、減量の余地がある。それがおっしゃるように、コンポストの容器を普及させれば、皆コンポストのをしてごみを減らしてくれるかどうかですね。そこなんですよ。大体もう、普及率から言うと、前に見せていただいた統計から言うと、段々段々と頭打ちになってきているというような結果だったと思います。だからそれをもう少し、視点を変えた形で新しい形を考えようということで、言い換えると、先程の話をしますと、ここでの努力をこれ以上進めてもなかなか大きな効果が期待できないと。そうすると、一つは社会的なシステムを組んでいった形の中で、まあそうすると、そういう事をやるためににはそういう事の協力を得るという形で、今回JAの方に来ていただいたて、その可能性を探ろうという形でやってるんですけど、中々良い答えが出てこないという所で詰まっているという話なんです。
	委員	ちょっといいですか。
	会長	はい、どうぞ。
	委員	皆さんの方のご意見出していただいたんですけど、農協さんの方から出口戦略ということでね、非常に良い提案していただきまして、また他の委員からもその辺のアピールということで提案されてます。現在、私が言うよりも報告していただいたら良いんですけど、若干触れておきます。 現在、リサイクル研修ステーションの方で社会的な実験で生ごみを採集され

		<p>て、それで希望者に堆肥ということで配っておられます。私も好きなんで希望しておいたら、人気があつてね、一か月先ということで、袋をいただいているんですけど。そういうような事について、まだ小さい小さい社会実験なので、そういうアピールされないのかも知れませんけども、出口戦略ということからすれば、家庭菜園で確かに高い肥料を買うよりもですね、その辺をやっぱり有効に利用するという事と、それから私の一つの取組みですけども、リサイクル研修ステーションと一緒にさせていただいた事あるんですけども、落ち葉。これについて、その落ち葉を一年置いておいて、堆肥化しようと。非常に土を軟らかくするという事で、こういう取組みも致しましたし、並びにそういう生ごみをいただくという事を広報されたら、結構人気あるんですね。それから、その以前に木津中央体育館の方でたぶん道路等の雑草から出た、それを堆肥化されていると思うんですけどね、それも非常に、私はもう山で作りますので、その辺は最近は行ってないんですけども、沢山の方が集まられて、道路の雑草ですか、その堆肥を貰いに行くと。そういうような一定の循環と言うんですか、それがありますのでね、出口がないと言うよりも、結構あるんやという事で、それを積み重ねていったら、もっともっとその辺の捌け口が増えると思います。それから、分からぬんですけど、学校の方でもね、一定の給食の生ごみということで、それは木津川市の方ではちょっと報告いただきたいんですけど、京都府南部の方で、ある市では学校での生ごみ結構出るみたいですね。それについては学校菜園で利用すると、そういう循環がもうされてますんでね。その辺ちょっと私の補足ということで、リサイクルステーションですか、その辺の生ごみの、そのような取組みという形で報告していただきたいんですけど。</p> <p>以上です、よろしくお願ひします。</p>
会 長		<p>今の〇〇委員のご指摘は重要な話で、要するにシステムを組むにしても、一つの大きなシステムを組めばいいんじやなくて、そういう風に小学校を中心としたバージョン、あるいは京大が可能性があるんだったらそういう幾つかのバージョンを作つて、そういう小さな幾つかの試みを組み合わせることによって、大きな成果を挙げていくという形から言つたら、そういう事が可能だらうと思います。</p> <p>特に、おっしゃったように落ち葉であるとか雑草類というのは、これは前から言ってますように質が一定なんですよね、ほぼ。家庭の生ごみに比べると。そうすると、そこはある程度汎用性があつて意外と使えるかもしれない、コンポストですけどね。ところが家庭のものになると、質がちょっと、季節とか色んなパターンがあつて、これは何とか家庭菜園でという形で、場合によつては〇〇委員がおっしゃったように、家庭でのコンポストをもう少し中心にしながら、質をもう少し求めるべきだと。そうすると、そうした三つ程を組み合せながらというような形でやっていくような形での、一つの提案にはなりませんけども、三つか四つを組み合わせることによって、大きなそういった効果を挙げができるのかどうか、そういう形で考えていったほうが良いのかどうか、という形で考えられると思いますけども。この点について、もう少しご意見を頂けたらと思いますけども。いかがでしようか。</p>
委 員		はい。
会 長		はい、どうぞ。〇〇委員。
委 員		私も勉強不足で分からぬんですけども、家庭から出る生ごみは色んな人が入れはるので、定まったものが入らないという事で、最終的には困るんだと思うんですよ。でも一応、学校とかの給食で料理してくれてはる生ごみは一応、安定言うことないけどね、きっちりと分けてくれてはるんじやなかろうかと思

		うんですよ。それで、そういう学校学校ごとの生ごみは一応安心してやっていく。前提でもの言うたらあかんのですけども、そういう学校学校の生ごみを一応、試験的に実験的に集めてもらって、どのくらい生ごみを減らしたら田んぼがいけるとかいうね、データが出てくると思うんですよ。で、そういうことを小まめにちょっとこう、なんばかこう集まって学校ごとに、二つか三つの学校一つに生ごみ集めてね、それを生ごみの機械で、大きな機械はできしませんので、ちょっとした機械で、リサイクル研修ステーションにありますやんか、それを乾燥して、我々かてそれを貰ってきてるんですよ。生ごみをそこに持つて行って、堆肥として。そういうシステムは、まあちょっとこじんまりしてますさかいに、えろう大きくはできしませんねけども、ちょっとした学校をほとんどもう貰ってきてね、してはると思うんですけども、もうちょっと増やしてもらってね、そういうシステムをね。で、とりあえず学校とかそういう安心した、そういう所の生ごみを運んでもらうか貰いに行くかどうにかして、したらどうかなと思いますけど。
会 長		そうですね。学校での給食で出てくる生ごみの量というのは大体、市の方は把握されているのかな。わかりません?
事 務 局		出てくる量は把握はしてないです。
委 員		処理はどうしてはるんですか。
委 員		学校の沢山出るごみとか生ごみとかは。してはる所もあるよね、自分とて。
会 長		自家処理してはるの。
委 員		給食センターやね。
事 務 局		そうですね、木津川市におきましては、給食の方につきましては各学校ではなくて、給食センターでの作成という形になっております。 先程、ちょっとご意見がありましたら、リサイクル研修ステーションの方で業務用の生ごみ処理機ということで置いてあるんですけども、そちらの方は給食センターから出ます、先程ありました調理屑ではなくて野菜屑の方ですね、野菜屑の一部、もちろん処理能力がありますので、全体の回収というのはできないんですけど、出ます野菜屑の方を一部回収いたしまして、堆肥化をしておるという。その堆肥化を皆さんにお配りさせていただいているというような状況でございます。ちょっと、給食センターから出ます生ごみの量ですね、そちらの方につきましては現状では把握しておらないという状況になっております。
会 長		ということは、リサイクル研修ステーションに入つてない生ごみは、どこに行っているんです。一部しか入つてないという事になると。
事 務 局		入っていないものにつきましては、通常の収集でごみとなっております。
会 長		ということは、焼却されていると。
事 務 局		そうですね、はい。
会 長		そのところは、なんか能力を増やすような気がしないでもないんですけどね。どうなんでしょう。

	委 員	今の答えを聞いてね、木津川市で学校で出る生ごみとかね、残飯ですか、給食のね、利用してはるんで、ごみに出すだけではちょっと能がないし、こういう木津川市の案ということで出さはって、意見を頂きたいという事やしね、その辺も下調べをしていただいてですね、環境だけと違うて、学校は学校やと、総務は総務やと言う風な部分で、ごみを減らすという取組みについて一定の指針というか、お尻を叩いてやっていただきたいと思うんですよ。この木津川市の案やったら、皆さんから意見頂きたいというだけでしたらね、ほんまに何か呆れて、なんか頭絞れないと思いますんで、ちょっとその辺いかがです。
	会 長	議論するための基礎的な資料がちょっと、量がどのくらいあるものか、それによって所謂、それが本当にごみの減量化に資する形の効果がある形の取組みになってくるのかですね。場合によっては、先程ありましたように社会システムとして考えていけば、かなりの投資を伴いますので、場合によってはコンポストセンターを作るとかそういう事になってきますので、その面から言うと、むしろそのくらいの量だったら、先程〇〇委員がおっしゃったように、コンポストをあるいはもうちょっと普及した方がいいんじゃないかと、頭打ちになっててももっと、という形もあるかもしれませんので。ちょっとそのための基礎的な資料を少し、今出てきた色々な形を考えていく上において、もう少し資料を出していただくことの方が、むしろより具体的な議論がし易いような気がしますけども、いかがでしょうか。
	事 務 局	ちょっとよろしいですか。
	会 長	はい、どうぞ。
	事 務 局	<p>失礼します。今、色々ご意見を頂いた中で、認識と言いますか、確認をさせていただきたい事が一点ございます。今回のごみの減量でございますけれども、ごみの減量をしていくためのターゲット、これにつきまして前回のもつたないプランで二つの視点を挙げていただきました。それは一つが紙ごみ、雑紙を含めた紙の関係です。もう一つが生ごみ対策です。それから学校給食であります、色々な所のご指摘をいただきましたので、その辺りについての資料につきまして、また別途整理をさせていただく事が必要かなと思思いますけれども、前回のもつたないプランを作成する時にですね、ごみの組成がどのようにになっているのか、これ各家庭からごみ袋を市の職員が集めてきて、分析をさせてもらいました。その中で、生ごみと言いますが全体の約50%近くを生ごみが占めていたという事なんです。その中におきましても手付かずの食材につきましては、全体で言いますと、その生ごみを全体を100とした時に、手付かずの食材は14%程ございました。ただ残りの85%近いものが厨芥類ということで、各家庭からの半分のごみ、その半分のごみの中のほとんどが厨芥類という事でございましたので、色々ターゲットにすべきところは沢山あると思うんですけども、まずごみの減量をしていくためには、各家庭から出てくる厨芥類、この辺りにつきまして対策を練っていかないと、中々ごみは減らないのではないかという事でございます。</p> <p>雑紙につきましては、前回〇〇委員の方からも色々アドバイスを頂きました、雑紙とはどういうものかといった事につきまして改めて勉強させていただきまして、市の広報とかにも出させていただいているところでございます。</p> <p>本日は色々ご意見を頂いている中で、〇〇委員の方からも今のコンポストの取組みをもっと強化したらどうかとかいったご意見も頂きましたし、JAさんの方からは、それをシステム化する中におきましては色々農業従事者の中においても課題が出てくるといったようなご指摘も頂いております。ただ、私はク</p>

		<p>リーンセンターといいますか、清掃センターの担当をしている訳ですけども、このごみの減量につきまして、非常に大事な問題だという事で思っています。その中で、継続していかにごみの減量ができるのかといった事が、ごみのクリーンセンターを建てていく上での大きなポイントでもございますので、先程も○○委員の方からもご指摘いただいたように、生ごみ対策というものが色々あると思いますけども、色々な施策を数多く打つことによって継続性のある生ごみ対策といったものを考えていくことが必要ではないのかな、という事で思っておりますので、資料不足のところにつきましては、また改善をさせていただくことが必要だと思いますけれども、色々なご意見を頂く中で、考える上でのヒントという風にさせていただきたいと思っておりますので、各家庭から出てくる生ごみ対策、これをいかにして対策を講じていったら良いのか、そういう事につきましてご意見なりを頂けたら助かるという事で思っております。以上でございます。</p>
会 長		<p>そういう方向でやっているつもりですけども、つまり言い換えると、家庭のごみは厨芥類という言い方から言ったら、全てがコンポストにできるかという問題の中で、いわゆる調理されて塩分が含まれたものも生ごみも一緒に入ってくると、これはもう恐らくJAさんは拒否されるという事ですので、家庭系の厨芥がこれだけ多いよと言われても、それをコンポスト化していくにしても、そうしたらちゃんとそれを分けて減らしていくという形を求めるのか、という事の議論になってくると、かなり家庭に対する負担ができる。そういう面から言うと、コンポストもできる所からやっていかざるを得ない。そういう形の仕組みの中で、協力を求めるという形でやっていかざるを得ないというような議論だろうと思います。問題は、そうしたらコンポストだけが生ごみの対策かという事になると。他のごみ減量に、生ごみや厨芥類を含めて、厨芥類をどうするかという形も当然議論しなくてはいけないという事になりますので、そこも含めてご意見を頂けたらいいというような気がします。つまり言い換えると、全てコンポストにして生ごみからなくなってしまえば、という形で話が終わるんではなくて、コンポストにした所でまた課題が出てくるよという事では根本的な解決にならない、という事であります。</p> <p>従って、基本的にコンポストできるんだったら、それぞれ自分の所から出てきたごみについては、コンポストすれば自分の所で責任を負うという事についてはできるけれども、JAを持って来られても、JAは責任負えませんよという話ですよね。つまり言い換えると、そういう形だとかなりの解決しなくてはいけない問題がありますよ、という事だろうと思います。だからその中で、ある程度の中で、小学校であるとかそういう形のご意見が出てるという事になると思います。どうぞ。</p>
委 員		<p>ちょっと先程も私、初めてお話をさせていただいて、販路がやっぱり大事違うかという考え方の中には、先程先生がおっしゃったように京都大学、15ヘクタール位だと思います、ここに来ると聞いておりますのでね。</p> <p>それともう一つ、先程農家に対して、堆肥を使っていないのが大半ですよというお話をされていたと思うんですけど、それは例えば家庭菜園に対してでもね、これは問題ないですよと、例えば市が内容の分析をしてね。これはやはり入れたら、堆肥は先程も申しました通り体力作りでございますのでね、悪い事はないと思うんですよ。でも、この堆肥は全然問題ないですよと、木津川市の堆肥に対しては農家に使ってもらっても問題ないよとかね、そういう方法というのはまたできると思うし、それが浸透すればね、もっと別に農家に使っていただいた拡大もできるん違うかなと。</p> <p>それと先程先生もおっしゃったる、色々な関係機関ですね。例えば米屋であるとか直売所、JAだけに有人の直売所だけでございますのでね、例えば山城</p>

		<p>町にも有人の直売所もありますし、加茂にもあります。若干、週何回かやられてる直売所、山城だけでも 60か80くらいあると思うんですわ、ちょっとざっくりしてますけども。ですから、かなり直売所というのに京都府さんも力入れられておりましすし、有人でうちみたいに、これやましろ農協のこういう有人の直売所というのが、今 JAでやってのが 7 店舗ございます。八幡市にもござりますし、城陽にもございます。ですから、例えばそういう将来的に堆肥を問題ないですよと、どこの市町村も考えられていると思いますけれどね、良い堆肥ですよとなってきた時にね、販路というのは、またその方法によっては何んでもね、捌けていくんちやうかなという風に。</p> <p>それよりもまず、この堆肥問題ないですよと、家庭の残飯よう出とるけど、木津川市の中で使っていただきても、内容分析したら問題ないという形を例えばアピールできると。そういう方向でやっていけば、僕が聞いておった茶園であるとか、先程申しました果樹園ですね、そういう病害虫が出るという事は聞いておりましたけども、別段、例えば府の管理機関に内容分析とかそういうのしていただきて、問題ないってなったら、十分木津川市管内でも使っていただけるんと違うかな、という形はやっぱり思っております。以上です。</p>
会 長		<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>今おっしゃったように、明治大学のこの例を見ていくと、成分分析というのは色々な事をやっているんですよね。そういう形のあれをされると、恐らく JAの中の、それだけの安全なものだったら、そういう形のものを自分の所で受け入れてもいいよというような形が出てくるだろうと思います。だからそういう面から言うと、いつ来るかどうか分からぬというのはあれですけども、そういう形をやっぱり、連携して模索すると言うのも一つだろうと思いますけどね。それによって問題ないという事が、ある意味では京大で分かれば、恐らく普及は少しづつ早まるだろうと思いますので、そういう面から言うと、とりあえずそういう形の流れの中で考えていくしか仕方ないような気がしますね。どうでしょうか。はい、どうぞ。</p>
委 員		<p>コンポストもね、良い事ばっかりちやうんですね。家庭で使いますとね、やっぱりモグラが来ますねんわ。私ら使うてるさかいよう分かりますねんけども、モグラが来て、モグラは害になりますのでね、あんまり推進する事じゃないと思いますけどね、それがやっぱり一番家庭で、とりあえず生ごみを減らすっていうのは、一番それが手っ取り早いと私は思うだけで。今使うてはる人でも、進んでそれを使うてはる訳でもないと思いますねんわ。それなりに被害がありますのでね。そこらを考えていただきたい。</p> <p>それと、1個だけではあきませんねん。やはり2個要りますねん。やはり時間がちやいますからね。完全に堆肥にならん事には、次使えませんねん。そういう事もちょっとと言うとかんと、ちょっと分からぬかと思って。</p>
会 長		<p>おっしゃる通りです。成熟中の中に新しいの入れたらね、上から。</p>
委 員		<p>そういう事です。なかなか使えませんねん。以上です。</p>
会 長		<p>そこいらのノウハウを、そういう面から言うと、やっぱりリサイクルステーションとかそこいらで研修をやりながらやって、そして家庭菜園やる人のプランターの中に、種なんかを研修した人に配れば、少しやってみようかと。そして自分とこが上手くいかなかつたという失敗談があつたら、また研修ステーションでそういう話をしてもらって、少しづつ経験を積むというのが一つあると思いますね。どうぞ。</p>

	委 員	<p>生ごみの、先程事務局の方から色々と話ありましたけども、我々の生活 자체をね、やはりスタイルを変えるのと、意識を変えなかつたら、生ごみはいつまでも出てくると思うんですよ。</p> <p>という事は、ヨーロッパ旅行してて、人参でもジャガイモでも何でも出てくるけど、皮剥いたもんなんて出てこないんですよね。全部一緒に食べちゃう訳ですよ、全部。リンゴでも果物でも皮付いたまま全部カットして、無いのは芯のどこだけですよ。あとはもう全部出てくる訳ですよ。それ全部、我々は向こう行って旅行している時は、それを何の疑問も感じないで、やっぱり食べる訳ですよね。だからうちも、はつきり言つたら果物というのはもうほとんど皮剥かないです。全部、中の芯とかそういうどこだけは投げるし、野菜も芋でも大根でもそれから牛蒡でも皮は剥かないです。もう、ちょっと目の粗いタワシで擦って表面を落として、そのまま食べてしまうんです。で、野菜も、日本人が世界で一番胃腸の薬を飲んでいるっちゅうのはやはり、皮を剥いて食べているからじゃないかと言われているんですけど。やはり生活のスタイルを変える事と意識を変える事、これはもう少し、市の方から住民に対して教育とかそういうものをやればね、もっとごみというものは減ってくるんじゃないかなと思いますけども。</p>
	会 長	<p>ありがとうございます。それも一つですね、おっしゃる通り。エコクッキングの話ですね。エコクッキングはやられてるのかな。講習会とかやられてるんですか。ご存じですか。</p>
	事 務 局	<p>今のエコクッキングの話でございますが、リサイクル研修ステーションの方で定期的に、年何回かではありますが、そういう取組みも環境教育の一つとして行ってはおります。</p>
	会 長	<p>それは参加者はどのくらいです。魅力のあるエコクッキングの教室なのかどうかという事ですね。やっているから、というあれでは。</p>
	事 務 局	<p>そうですね。人數的に言いましたら十数名から二十名くらい。市全体から考えますと参加者が少ないという状況であります。そういう形で取組みというのもリサイクル研修ステーションの方で啓発の方は行ってはおります。</p>
	会 長	<p>だからそれも、どうやったら参加者増えるでしょうかね。そしてまた取り組んでもらえると。それもインセンティブの問題ですか。</p> <p>形だけでやってて、コンポストも一応は普及をしている。しかし、それがまだまだ有意義な形でのごみの減量に繋がってない。これもそういう面から言うと、やっているんだけども、その政策そのものは〇〇委員もおっしゃるように、実際にそれが効果ある所まで行っているかどうかですね。言い換えると、皆さんのがおっしゃるような意識の変わるところまで徹底的にそういう形がなされているか。一応、形上はやっているんだけれども、そこまで浸透しないというのは何なのか。そこをちょっと考えていかなくてはいけないような気もしないでないですね。</p> <p>これは、必ずしもコンポストだけではなくてという事になりますので、次の問題も含めた形で、インセンティブをどのように付けたら、皆がライフスタイルを変更したり、あるいは意識の変革ができたり、という形でなってるのか。あるいはもう一つ、インセンティブの問題から言つたら、やはり楽しみながらという事をやらないと中々上手く行かない。そこのいらの話に繋げていきたいと思いますので、2番目の話についての資料がございましたら、事務局の方からお話を頂けたらと思います。</p>

	事務局会長	<p>事務局説明省略 (No.4 :インセンティブを活用した持続可能なごみ減量化の取組みについて)</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>そういう面では、前回環境教育という形で、子供たちの環境教育という形から言うと、実践的なという意味から言うと、今回のコンポストについても小学校を一つの核にしたらどうかという話も出ていますので、是非とも事務局におかれましては、そういう形の可能性、言い換えるとこれはやっぱり教育委員会と話し合いをしなくちゃいけないのかも知れませんし、そこいらのご意見等も頂けたらというような気がします。そういう面から、きっかけ作りという事の中でのインセンティブですけど、結構やられているんですよね、きっかけを作ろうと。しかしそれが先程の話のように、参加者が少ないとそういう事が大きな問題で、どうやったらそういう形の、全市民向けのきっかけ作りができるようなインセンティブというのが存在するのかという事、そこいらを少し、皆様方のご意見を頂けたらと思います。あるいは、今の資料No.4についてのご質問でも構いません。はい、どうぞ。○○委員。</p>
	委員会長	<p>そういう啓蒙活動、きっかけの場作りとしてですけれども。先程コンポストについても、私の知り合いの人も、貰ったんやけど使い方が分からへんから、そのままどっか行ってしもたわと言う人もありますて、本当に知らせているようなつもりでも分かっていない、学習の場がなくて知らないままになっている方もあると思うんですね。やっぱりリサイクル研修ステーションで色々な講習会をしても、あそこもそんなに広くもないですし、場所も分かりにくいという。やっぱりそういう意味では、学校、子供たちを対象にしたエコクッキングとかっていうのが一番広くできるかなと思うのと、あと主婦の人たちは、やっぱり商業施設で何かイベントがあれば分かりやすいかなというので、JAさんにしてもらうとか、アルプラザさんの所の中借りるとか、そういう風な場所を検討していくけたら、何かイベントするのであれば良いのかなと思いました。</p>
	会長	<p>そうですね。古紙にしても、それからアルミ缶にしても、小学校が集めている所っていうのは全国で結構多いんですよね。それが有価物になって、それで小学校の予算化できないような色んな教材であるとか、そういう形でも小学校は助かっている所がございますので、そういう面から言うとインセンティブあるんですよね。もう少しそういう面で、そういう形の活用できるものを、ベルマークにしましても、色々な形がありますので、是非とも色々な可能性が、小学校が一つ。それからもう一つは、パートナーシップの中でもごみ減量推進委員、くるっとさんの活用の仕方と、それからエコステーションの関係ですね。今までも、どうも皆さん方、エコステーションというのはもっと機能を充実させて活用すべきだというご意見を頂いてますけども、それを含めた形の中で、もう少しより具体的な形で提案を頂けたらと思いますけれども。いかがでしょうか。</p> <p>あるいはスーパーマーケットでも、そういう形から言うと、そういう環境に向けてのイベントというのはできるんですよね。そこいらから言うと、事業者もある意味ではそういう形で環境教育に関われる場もある。私も一時、あるスーパーマーケットと一緒に形で、そういう人と環境に優しいというような形で、色々な形の普及活動や講演会やイベントをやってきましたけども、その点での、事業者としてそういう形で協力できるような所というものがもしもございましたら、市民側からばかりの意見を頂いてますので、事業者としてもその点がありましたら、是非ともご意見頂けたらと思いますけれども。いかがでしょうか。はい、どうぞ。</p>

	委 員	○○です、お世話になってます。 先程、スーパーとかのそういったスペースでというお話あったんですけども、私共の方はあまりそういったスペースは、あまりスペース的に広くございませんけども、そういった催し、公的な分とか市民的な分とかについては、極力積極的にお貸しさせていただいて、今までしていますので、事前にある程度早い段階でお知らせいただいたら、できる限りのご協力はさせていただきます。是非、ご利用いただけたらと思います。
	会 長	そういう面で、そういう業者とコラボレーションした形の、連携を取りながらという形でのごみの啓発について、市は何かやった実績というのはあるんですか。
	事 務 局	昨日なんですけれども、木津川市のガーデンモールの所で、くるっとさん主催でフリーマーケットを行いました。40店舗余り出店されたという事で、盛大に行われました。
	会 長	それは定期的ですか。
	事 務 局	そのフリーマーケットは年1回です。
	会 長	それで十分なのかな。やっぱり定着させるという形から言うと、年一回は楽しみだけれども、やっぱり定期的にやっていかないと、習慣化していかない気もしないでないですけども。折角、貸していただけるというような事があるんですから、大体何の日は大体どこでフリーマーケットをやる、京都だったら大体決まってるんですよね。何の日だったら、どこのお寺というような形でやる。百万遍とか色々な所で、お寺によって日にちは違いますけども、単に弘法さんとか北野天満宮だけではなくて、色々な所でそういう事をやってますので。それから夏になると、これは年一回になりますけども、下賀茂神社の所で古本市をやっています。結構、定期的にやられているので、それを楽しみにされているという形で、何日は大体、百万遍に行くと小物のアクセサリーを中心とした形とか、色々ありますので。そういう面ではもう少し、活用されるという形はあり得ると思いますけどね。はい、どうぞ。○○委員。
	委 員	私はくるっとの者なんですけども、推進員なんですけども、年間の私たちの、ごみの減量の色々な行事やってますので、こんだけの事してるという事を皆さんに報告したいと思いまして、事業計画案を持ってきました。26年度から27年度までの、私たちのやっていることを皆さんに報告させていただいて、来ていただく時はまちの人皆さんに来てもらうような、広報にも毎月載せてやっておりまして、4月には、ほかす様な布を集めてまして、古布草履作りをやっています。6月には、エコ手芸教室と言いまして、南天の木に9匹の猿を作つて苦難去るっていう、そういうものをやっております。これ人気ございます。7月にも同じように一番人気があるのが、古い布を使って草履を作る講習会をやっています。8月には、牛乳のパックの中の白い所を剥がして、それを水に漬けて、子供たちに来ていただきまして、紙すきをやっております。それも牛乳をほかすんじゃなくて、それで子供たちに葉書を作つてもらって、子供たちが喜ぶような絵とか色々なものをそこに貼り付けまして、暑中見舞いであったり、葉書で色々なことを子供たちが楽しんで作ってくれてます。それから9月には、また第3回目の古布草履をやっております。そして、また9月の19日には、市役所の住民活動スペースを借りまして、ぎゅっと一絞り運動ということで、もったいないプランの一環としてそこを借りまして、秤で、絞らない状態のと絞った状態がこんだけの目方が少なくなつたという事を実験していただく為に

		<p>そういうコーナーを作つて、色々な活動報告のポスターとか貼らしてもらって、2日間やっております。それと10月には、同じくエコ洋裁教室でいらなくなつた布でスカーフを作つたり、帽子を作つたり、着物で好きな物を皆さんで作ろうという事でやっております。11月には環境まつり、これからですよね。10月の19日、昨日ですよね、フリーマーケット、ガーデンモール木津川で色々な40店舗の店を置かしていただきまして、できるだけほかさないような、ほかさないで皆さんに安く良い物を買っていただこうという事で、捨ててしまえばごみだけども、皆さんに活用していただくという目的で、まあこれもごみの減量になると思います。それと11月の15日の土曜日、まだですけども、もうじきですけども、これは、くるつとの環境まつりはリサイクル研修ステーションでやりますので、皆さんもしあそ通られた方は、ちょっと見にくいく所でございますけども、素通りをなさらないで、来ていただいたら色々勉強になると思いますので、来ていただければありがたいと思います。12月には藁、皆さんもうこの頃藁みたいなん切つてしまわはりますねんけども、うち昔藁はそのまま残しておきまして、しめ縄作りにうちの藁を持ってきまして、しめ縄作りの講習会をやりました。そして1月の19日、エコ洋裁教室、これも9月同様人気があるので、やっております。3月にはまたエコ洋裁教室、2回やっております。</p> <p>以上、これだけくるつで私たちは活動していますので、何とかこちらに来られた場合は是非寄っていただきたいと思いますので、できるだけ皆さんのご協力、人数が足りないので困っておりますので、一人でも多く来ていただいたらありがたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。以上です。</p>
会 長		はい。どうも、ありがとうございます。くるつさんの活動を一年間こうやってご紹介いただきました。他に何かございますでしょうか。
委 員		ちょっとご質問したいんですけども。
会 長		はい、どうぞ。
委 員		先程からコンポストの話、話題よく出ておるんですが、恐らく最初に導入する場合には、市からの援助もしくはそういうのがあると思うんですが、本来ですね、これ毎月使い続けるという事は、結構やっぱり個人に負担が掛かってくると思います。ある意味では、使い続ける事によって、インセンティブというんじゃないんですけど、使い続ける人たちにプラスアルファをですね、何かそういうものがないと途中で止めてしまう、もしくは自分の所だけ肥料にしてやったところで広まらない、という話も出てくると思います。だから、やっぱり導入する以上は継続して使ってもらう、その為に何かやっぱり、役に立つていいという意識だけではなくて、身に還るものがある必要があるかと思います。その辺りは、市役所の方としては、基本的に継続的なバックアップというのは難しいんでしょうか。
会 長		重要な視点ですね。所謂、もう配つてしまつて、あとは本人任せという形ではなくて、市が何らかの形でその効果を検証したり、あるいはバックアップをすると。あるいはトラブルが起こっているような、中々できひんというようなものについて相談を受けたりというような、そういう体制が整っているのかどうかですね。
事務局		先程の図にもあります木津川市案という形で挙がっておりますが、これが木津川市の全ての考え方という事ではないんですが、ここにもあります通り、作られて堆肥ができまして、それがご自身に何も還してこないという事であれば、

		もちろん継続性につきましては中々難しい状況になると思います。ですから、こういう取組みをしていただく事によりまして、本人さんに何らかの形で還てくるという事が大変重要な事だと思います。例えばこの中では、例に挙げました農業関係者の方か、そういう所で作っていただきまして、そういう販売をされておられます所の野菜の購入という事で、野菜を購入されるために必要な商品券というような形で明記はしてありますけど、例えばこれが、先程課長の方からもありましたように、本人さんにその野菜を育てるための種でありますとか、そういう農業だけに関わらず、リサイクル研修ステーションでの取組み、例えば生ごみの水を絞るためのネットでありますとか、そういう何かの形で、堆肥化をしていただく事によりましてご自身にも何かそういうメリットがある、というようなものを構築していくかないと長続きはしていくかという形で考えておりますので。現在その形で取り組んでいるという事ではなくて、こういうシステムを作りまして、そういう形で今後も取り組みを考えたいという形で思っております。
会 長		という事は、行政はどんな役割を、バックアップをするという形でやってるのか、そこについては聞けなかったような。言い換えると、主体になるのは市民ですよ、という形は分かります。市民がそれをあれするために、インセンティブの付与してという形を考えていきますと。ですから自動的に動いていくので、行政は全然関与しませんよという事にしか聞こえないような気がしますけどね。だからそういう面から言うと、市民がそういうインセンティブをもって取り組んでいっても、さらに長続きをするだけのバックアップをしますよと、あるいは市ができなければ、そういう事を代わりにくるっとさんに頑張ってもらおうとかっていう形で、行政を通じて実際にやってもらっていますよとか、そういう形があると思います。だから、そういう面から言うと、市が何をできるかという話をしなさいと。行政の役割という事ですので。
事 務 局		よろしいですか、すいません。そういう中で、そういうシステム作りをしていかなければならないというのも一つであります、もう一つは、例えば生ごみ処理機……
会 長		システムがずっと継続するように、市が何をやるかという。
事 務 局		生ごみ処理機ありますとかコンポストですね、そういうものを活用していくにあたりまして、先程から言っておりましたけども、所謂モニター制度でございますとか、そういう形で取り組んでいただきました方につきましては、資材等の提供の方を継続的にさせていただくという事もございまして……
会 長		それも分かるけども、問題はハードな面を皆さんに配ってそれで終わりですかと。言い換えると、それを運用していくためのソフトのあれもあるので、その所についての支援はないのですかと。なければ、場合によっては肩代わりの形で、市が重みを感じられていたら、そういう所にお願いをしながら、モニタリングをしながら、そういうトラブルシューターと言いますか、そういう形で悩まれている方を支援しながら、めげないように頑張って下さいという形で、それでこういう風なアドバイスを頂いたので続けられたとか、そういう形の仕組みというのがありますかという事を。
事 務 局		そうですね。そういう形でアドバイザー的なものもですね、まあ……
会 長		やってますかという事です。

	事務局	現在は行っておりませんけれども、そういう形でアドバイザーなどを置きまして、そういうモニター制度の中を構築させていただくに当たりましては、そういう形でアドバイスをしていただく方なんかも構築いたしまして、そういう形でバックアップと言いますか、フォローできていければなという形で考えていいきたいとは考えております。
	会長	という事は、市は今から、そういう面から言うと、ハードなそういう形の補助金だけじゃなくて、そういう事の取組みのノウハウも含めた形でのソフトに対しても支援をやる、あるいはそういう支援が市が直接できなければ、そういう市の代わりにやってくれる組織を育てるという事で理解してよろしいですか。
	事務局	はい、結構です。そういう形で考えていいければと思っております。
	会長	という事で理解していったらいいんですね。そうすると、所謂行政のそういう形の中で求められる、継続させるための市の役割と言いますか、というのは何なのかという事をもう少し具体的に、皆さん方でこういう事もやらないと、単にコンポストだけじゃないよと、こういう所でも一生懸命取り組んでいるけれども行き詰っているよと、そこにこういう支援があればというような事がありましたら、是非とも問題点を出していただけたらありがたいと思います。
	委員	それとこの際言うておきますけどね、山城町の場合は毎晩防災無線があるんですよ、7時30分にね。その時にこういう風な、ごみの減量化というのは言わはった事がないんですよ。これを、山城町の防災無線で一週間に一遍くらい言っていただくと、生ごみの減量化に結び付くと思うんですけどね。できたらそれ、お願いしたいと思います。
	会長	防災無線は、どこが管轄されているんですか。
	委員	支所。
	会長	支所の方に連絡というような形の中で、そういうと、防災無線に対する色々な情報提供というのは、支所にどういう形で集まるんです。
	委員	そこまで私は、ちょっと分からぬですね。
	会長	その中に入ってないという事ですね、恐らくされてないという事は。ごみの減量化については。なされてないという事は、そういう依頼をされたという事はないんですね。
	事務局	はい、ないです。
	委員	ちょっとよろしいですか、弁護するわけやないけれども。補足です。行政の方に言っていただきたいんですけども、山城町防災無線ですね。ごみ減量の啓発という事はないんですけども、第一月曜日とか、ごみと不燃物が重なる段に気を付けて下さいとか、そういうのはありますけどね。ただこの間も、共催というか、〇〇さん私含めて、フリーマーケットという事であったんですが、去年の担当の方は、環境まつり含めて、山城地域だけになるかも知れんねんけども、そういうフリーマーケットだという事で、家庭の不用品もまた再利用しようという、そういうような有機的な放送をしていただいたら良いんやけど。だから木津川市におきましては、何か環境だと違うて、先程私申しましたよう

		<p>に、学校から公園から色々なそういう所の取組みを含めて、ごみを減らしていくかなあかんのでね。その辺の視点がまず無いと思います。</p> <p>それからこれは提案ということで、今議題になっておりますインセンティブによるモチベーションの向上ということでね。京都新聞でも近隣の市町の方を見てみたら、ごみを減らす取組みという事で、先程○○委員の方から、京都市とか先進地を見に行こうという事で言われておりますけども。ごみ減量の推進委員さんについては十何人という事で、色々な環境祭りからフリーマーケットから、それから古布という事で、先程○○さんが言われたように相当強い取組みを無報酬でやっておられるんですけども。もう一つ、ごみの問題というのは結構頭に来るつちゅうか苦情あるんですけどね、ごみのそういう減量のモニター制って言うんですかね、ごみを減らすための、いま生ごみをきゅつきゅっと減らしていく事でね、地域的に何人か募集して色々意見下さいと。再生紙のティッシュペーパーでもよろしいやん、そんなにお金要りません。そういうごみとか道路の問題って言ったら、結構市民の方は色々文句とかあるんです。ごみの問題につきましても色々言いたい事はあるんやけども、それは苦情と違うて、将来の木津川のごみを減らすとかそういう交流に繋がりますからね。そういうような、ごみ減量でもなんでも名前は良いですから、そういうモニター制という事で組織作りされたらどうかなと思います。</p>
会 長		<p>ありがとうございました。</p> <p>一つ、今は手が足りていない、防災行政無線をきっかけに所謂情報提供の在り方の問題と、もう一つはそういう形の中で、情報の共有というのは、情報を与えるという事と、それから情報を貰うという形ですね。そんなためのモニターモードという言い方だと思いますけども、それを単に市民がうるさい苦情を言っていると、あるいはクレーマーだという事ではなくて、そういう形では非とも市民からの情報を、いわば収集する。情報提供すると同時に吸収するという、そういう双方に情報の交換ができるような、そういう風な形での市の情報の提供、広報の在り方というのは一つ、行政がやるべき仕事としてもう少し強化すべきではないか、という提案だろうと思います。他にございますでしょうか。はい、どうぞ。</p>
委 員		<p>今の話なんですが、行政の事についてなんですけども。つまり、生産から消費という形で、生産・流通・消費と、最近ではそこから廃棄・処分と。生産の場合は結局、生産者責任だと何だかんだ色々、例えば容リ法なんかでも資金的な負担をさせられるとかいう形で、生産者側が色々と負担してます。流通の場合も、それに沿って消費者に対する色々な便宜を計るような事をしております。</p> <p>で、今回の減量の話なんですけど、ここ消費者に非常に過度な負担を、何か考えろというような位置付けのような気がしてしまうがないんですけど。行政の方は廃棄処分、つまり廃棄の場合、消費者は廃棄しますね、廃棄したものを収集運搬しては、焼却あるいは処分するという。で、今の現状から見ると、収集あるいは処分してますよという形で、行政の役割は済んでいるというようなスタンスに聞こえるんですけれども。ごみ減量を考える消費者は、先程から出ていますインセンティブという概念でありますけれども、それを消費者に期待するというのかな、あまりに過大じゃないかなと。行政は、収集あるいは処分するにはどうします、その為にはどうしてもらいたいか、どういう風な協力をお願いしたいかというような事を常に考えた中で、消費者をそういう風に引き込んでいくようなインセンティブの考え方の導入、そういう所に少し知恵を広げていかなければ、この問題は消費者が連動できないですよとなってしまうと、非常につまらんじゃないかなと。と言うのは、消費者には先程から例えコンポストで、これで業務してます。そっから先、売るのもこれコンポストに参加</p>

		<p>した人がやるんですか、とかね。あるいは場所をどういう風に提供するんですか。一回導入したけれども、後どういう風にそれを維持していくんですかというのは、それを導入した消費者に全部任せ切りというようなスタンスでは、どうも上手くいかないんじゃないかなと。ちょっと行政の方が、もう少し考え方を深く広く考えて対応していっていただきたいな、という風な事を感じます。以上です。</p>
会 長	○○さん。	
委 員	<p>この報告の所と言って良いのかどうか分かりませんけれども、ちょっと今日は見てきましたので、ちょっとだけお聞きしたいんです。と言いますのは、このごみの取組状況という所で。何ページですかな、3ページ目ですか、表紙から見ましたら。</p> <p>その中で25年度を見ますと、24年度と比較しまして、24年度は15,046tのごみの排出がありまして、25年度は14,997tという事で減少していますよねこれ、若干ですけども。ところがごみの処理費用ですね、これ24年度が8億3714万7千円から、25年度には8億8728万9千円ですね。ちょうどこれ5,000万円程上がっているんですね。だからこの辺について、これ建設費用は入っていないというように思っているんですけども、この事が非常に住民の方々にこれを送った場合に、不信感やら、どのようにしてこれ、5,000万円以上というのが前年度比較で出てきたのかどうかという事が、かなりこれだけの資料では、ちょっと思い当たられるのではないかという風に思うんですけども。</p> <p>やはりこの、所謂処理費用というのは、先程からごみの減量とか色々繋がつてますけども、私の我学の中での話をしてますけども、ごみに1kgどれくらいかかっているのか、処理費用ですね、それを何回となく言うたかて、あまり通じない。だからやはり広報でも、毎年ごみの処理費用にはこんだけかかっています、可燃物の収集運搬あるいは処理にはどの位かかっているという事を、やはりこと細かく、まあ大筋で良いと思うんですけど、詳しい細かい資料は良いと思うんですけどね、小学校5~6年生程度で分かるようなものを配っていただきたい。そうしたら、ごみに対する意識改革が出てくると思うんです。費用がね、費用がかさんでいる。お金がかかってない、税金でやってはるんやから何ぼ出してもいいわって、私どもの地域、私見てますと、年々ごみは増えています。しかし、ここで見てみたら、ごみ減少しますわね、人口増えてるのに。これ非常に私、不信感あるいは所謂勉強したいという部分です。その辺について何かございましたら、コメントを頂きたいと思います。以上です。</p>	
会 長	<p>今の話は、ごみを一生懸命減らしても、ごみ処理費用は高くなってしまう。何の為にごみを減らしてるんだ、という事に対する素朴な疑問だと思います。そこら辺についての、行政の方の説明としてはどういう形なのか、説明をしていただけたらありがたいという事だと思います。</p>	
事務局	<p>すみません。それでは、ごみ処理費用が約5,000万増えていると、まずその原因についてお答えをさせていただこうと思います。24年度に比べまして、25年度約5,000万の増となっております。この事につきましては、まずごみの燃やす費用といたしまして、一つは、ごみ処理につきましては木津川市と精華町と一部事務組合を作って、精華町にあります打越台環境センターという所で焼却処分しています。御承知のように、精華町にあるこのセンターにつきましては、今現在30数年目を迎えておりまして、非常に老朽化が進んでおります。そういう事で、平成23年度から24年度、2ヶ年にかけて、焼却炉本体の改修工事を行いました。そのオーダーが約3億の工事費になりま</p>	

		<p>す。当然この費用の支払いについては、起債を活用して支払いをしていくという事になっている訳であります、その起債の償還が25年度から始まったという事がまず一点。</p> <p>そして、炉の本体については新しく更新をされた訳ではあります、炉以外の色々周りの部分が、なかなかこの炉の性能について来れない。そういった事で、修繕・改修が相次いだという事で、片炉運転という風な時期が非常に多かったという事で、所謂そのセンターでの搬入ではなくて、所謂人口オーバー分を伊賀市の民間施設で処理をお願いしている所であります、その量が非常に増えたという事があって、約5,000万の増と、そういった状態でございます。以上でございます。</p>
会 長		はい、どうぞ。
委 員		<p>次の頁になるんですけども、引き続きまして、木津川市の家庭、所謂生活系ごみですね、15,486tとなってます。で、71,850人。京田辺市が65,403人、14,001tということで、これ1,400t、1,500t余り多いですね。これはどうしてかという分析等ありますやろか。よろしくお願ひします。</p>
事 務 局		<p>すみません。木津川市につきましては、生ごみ処理機のを行っておりまして、その関係で減っているという、京田辺市さんより少ないとという形になっております。人口に対してですけれども。</p>
委 員		<p>多いんですね、逆ですね。65,000で14,000、71,850で15,000という事でなってますやろ。だから、同じような状態でこれ多いということで、どうしてですかと。これは別に何かありませんか。</p>
事 務 局		京田辺市の人口が少なくて、生活系のごみも少ないっていう事ですね。
委 員		<p>そうそう。14,000ですやろ。71,000という事で、この比率から見たら15,000言うたら多いですなという風に思うんです。これはこんなもんですか。</p>
事 務 局		<p>すみません。その横の筋に行ってもらって、一人一日当たりの排出量、ごめんなさい、先程は僕も勘違いしてまして。排出量を見ていただきますと、京田辺市が…</p>
委 員		多いのか。ああ少ないな、ほんなら木津川市が少ないという事やね。
事 務 局		人口に対しては少ないです。
委 員		これはどういう風な事でかな。分からないです。
事 務 局		<p>すみません、よろしいですか。表の見方なんですけれども、今ご指摘ありました通り、一人一日当たりの排出量につきましては、事業系も含んだものになっておりますので、木津川市と京田辺市のごみの排出の状況を見てみると、一番大きく違うのは、事業系のごみは他の市町村に比べまして、木津川市非常に少なくなっています。ですので、今ご議論いただくのであれば、生活系のごみの排出量を比較していただいたら良いのかなと思いますけれども、京田辺市の人口が65,403人に対しまして、年間の排出量が14,001tになっております。この割合と、木津川市71,850人に対しまして、15,4</p>

		86tのごみが出ておりますけども、この比率につきましてはほぼ同じ量でございますので、木津川市と京田辺市の排出量に大きな差があるという事ではございません。これはあくまでもトータル量でございますので、人口が増えれば当然その分だけ増えてくるという事でございますので、今ご指摘のありました人口の比以上に木津川市が多くなっているのではないかという事につきましては、計算しますと、ほぼ変わらないという事でございます。以上でございます。
委 員	員	ああ、なるほど。分かりました。
会 長		はい、どうぞ。
委 員		<p>排出量だとかこういうものは、数字として出てしまったものについてはもうどうしようもないと思います、はっきり言ってね。後からああだこうだ言ったってしょうがないと思います。</p> <p>ただ問題は、それぞれの年度でP D C Aを回すことになっていますよね、前から。だから、このP D C Aを回して、それどういう風に活用されているのかというのを聞きたいんですよ。それ無くなったらもう、P D C A回さないでも、そのまんま数字が出たとこ勝負、それだけになってしまふんじやないかなと思うんですけど。</p>
会 長		それは恐らく、どう評価されたかという事にも係わってるだろうと思いますけれども。段々、そういう面から言うと、議論が報告の方まで入ってしまいますけども。
事 務 局		すみません。その、先程の○○さんから頂きました分ですけれども、木津川市のごみ減量化推進計画、報告1になるんですけれども、それの三枚目のブルーの分ですね。マイバッグ運動、もったいない情報とか載ってる分ですね。そこに22年度の実績、また25年度の実績等も載せておりますので、それをご確認いただきたいと思っております。この分を数字化させていただきまして、「見える化」ということで進行管理を行っているという所でございます。以上です。
委 員		これは、P D C Aを回してる訳でしょ。回して色々な問題があれば、そこで歯止めをかける訳でしょ。歯止めはかけてない訳。それでなかつたらもう、毎年毎年、出た数字そのまま発表するしか。
事 務 局		そうですね、今の現状では、数字化を出させていただいているという事でもありますし、また委員の皆様の意見の中で、また改善しなければならない事等ありましたらおっしゃっていただきまして、また変えていきたいと思っております。
会 長		市としては順調に行っているという評価なんですか、その評価の仕方としては。チェックをした結果。
事 務 局		今の現状としましては、もっと改善に取り組んでいかなければならぬ事は多々あると思っております。
会 長		改善しなくちゃいけないと言うのは、目標値に対して、このペースじゃ届かないんだろうという形なんですね。
事 務 局		そうですね、はい。

	会長	<p>そうしたら当然、それに対して何らかのアクション、見直しの、どういう風に変えるという事の、ある意味では評価の後、それが書かれないと現状報告にはならないような気がしますけどね。P D C Aを回したことにはならないような気がしますけどね。だから、現状を報告するという形だと、チェックをしたという事で、そのチェックの結果、評価としてはまだ現状のままで推移してしまうと目標値に達しませんよと。そうすると、どういう形でそれを見直していくかという事が書かれて初めて、P D C Aを回したという事になるんじゃないですか。という事だろうと思います、○○委員の今のご質問は。あくまでも、まだその段階の前の段階として数値的な把握をして、現状はこうなってますよという形なのか、もう既にこれじゃあ不十分だという形まで評価をされたのかですね。どの段階での報告になるのか。評価されたんいたら、当然アクションを起こされるという形での見直しの出てくるような気が、さらなる強化のためにどうするという形が出てこないと、推進計画のP D C Aを回したという事にはならないんじゃないでしょうかね、という気がしますけども。</p> <p>いずれにしましてもこの場合、先程、話を戻しますと、○○委員のおっしゃったように、所謂減量化をしていくというインセンティブを考える場合、市民がごみを減らしたら得をする、ごみを増やしたら損をするという、全体としてのそういうインセンティブに結び付くような形での市の施策と言いますか、それを考えなくちゃいけないんじゃないかという事のご指摘だと思います。</p> <p>それから○○委員のおっしゃったのは、確かに、質問すればこの理由は分かるわけですよね。ただ市民にこのままいきなりこれを出してしまって、先程の○○委員のおっしゃるような疑問が出てくる訳ですね。そういう面での説明の仕方の問題、このままのが出でていったら、何や一生懸命ごみを減らしてんのにお金はかかるってんのかと。しかし、改修費であるとか色々な形でコストかかってますよという形を聞いて初めて分かる話で、そうすると、このままの形で出されてしまうと、数値そのものだけで一人歩きをする可能性がありますので、そういう面で市民に対して広報するにしましても、市の役割としてはやっぱり丁寧な説明が必要になってくるんじゃないか、という事に繋がってくるだろうと思いますけども。そういう形のご指摘だという気がします。</p> <p>いずれにしましても、そういう面で、一つはこういう広報する上における、どういう形で市民に理解していただくような、そういう形での広報の在り方というのは、一つ重要な問題だろうと思います。それを聞いて、市民がこれは頑張らなかんとか色々な形のリアクションが起こってくる訳で、そういう面で、これがそういうリアクションが起こってくる形でのインセンティブになるような方法での広報の在り方というのは非常に重要なことだし、またそれに対して、市民の色々な意見があれば、そういう形をどうやって吸収しながら、推進計画の中で改善をしていくかという形も一つ必要だろうと思います。そういう面で、行政の役割の一つとして、もう少し丁寧な広報の在り方というのは一つあるだろうと思います。</p> <p>それからもう一つ、二つ目には、皆さん方がおっしゃったように、所謂ハードな支援だけではなくて、その後継続するような形でのソフトな支援という形を、行政なり、あるいは行政が出来なければそういう組織を支援するという形で進めていく、という形で行政があるんではないかと。そのままの図を見ますと、市民が自動的にやって、そしてインセンティブを持ってやりなさいという形の中で、市の関わり無しに、何らかの形でこのシステムの中にインセンティブを組んで、管内商品券の交付とかそういう形で動きますよという形で、市の役割が抜けてるのではないかという事のご指摘だろうと思います。そういう面で、やはりきちんと市の範囲はどこにあるのかという事を明確にしながら、持続的な形の問題があるだろうと思います。ただ問題は、そうすると、市が関与すると、どうしても財政面の問題が大きな問題になります。言い換えると、我々</p>
--	----	--

		<p>今までずっと、この審議会の中では、できるだけ財政負担にならないような形でのごみ減量、という形の施策を皆さん方と考えてきた。その結果がまだ不十分だという形が出てるんだろうと思います。そうすると、基本的にやはりそうした財政的な裏付けを持った形の中で、更なるごみの減量化を進めていく、そういう所の施策を考えていかなくちゃいけないかも知れないという所に来てるんではないかと思います。そうすると、やはり我々も有料化の、この審議会で諮問されております有料化、これはある意味では、そのまま一般財源に入れてしまいますが何の為にという事になりますけども、ごみの減量化に資するような形で支出目的をはっきりさせる。そうすると、例えばリサイクルに関しては、その有料化財源の中からインセンティブとして何らかの支援をすると。そうすると、ごみを減らせば支援を受ける。しかしごみを沢山出せば、有料化の形でお金を出さなくてはいけないという形になってくる。そういう形の中で、ごみの減量についても、ある意味では、もちろん個人的な努力の中でやるという形も施策としては必要だけれども、もう少し一歩進んだ形での、所謂財政的な支出を含むような形でのごみの政策の問題も追究をしなくてはいけないのかなという気がしますけども。この点について、もう少し皆さん方のご意見を頂きたいと思いますけども、いかがでしょうか。いずれにしましても、答申の時には有料化の導入云々も含めて、我々答申をしなくてはいけない事になるだろうと思いますけども。本格的な議論というのはもう少し後になるだろうとは思いますけども、少し皆さん方のご意見を頂けたらと思います。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
委 員		<p>関連しますかどうかという事なんですけども、ちょっと見ていますと、分別の中で容器包装リサイクルの関係の容器なんかですね、それにつきまして、綺麗に洗って出してもらえる所についてはリサイクルされているのかなって思うんですけども、洗ってないような物を見ますと、業者さんは、可燃と所謂その不燃と言うんですか、容器リサイクルとか集めに来られるのが、私どもの方見てますと違うように思うんです。だから、ひょっとしたらその洗ってないような物は全部焼却されてるんちゃうんかなという部分が、私自身個人的に思っております。</p> <p>それからもう一つ、その有料という問題ですけども、この辺につきましてはやはり、京都市なんか先進地言うのか見てますと、やはり容量によって、ごみ袋で購入単価が違うという部分で、そこに転嫁をされているように思いますので、多く出す人はやはり多く負担していただくと。</p> <p>それともう一つ、容器そのもの、袋を一定のものを買いますと、ダイオキシンが、今やったらもうどんな袋でも出しておられます。もうはっきり言いまして、見ますとね、ダイオキシンが相当含んでいるような袋が、これは分析は私もしてませんから分かりませんけども、まあ見ますと、そういう部分がございますので。やはりもう袋から違うと。そうしたら、そういう環境への負荷というのが出てくるんじゃないかと思いますので、やはり有料化にして、所謂ごみ袋もリッター数もかなり段階的に付けていただいて、やはり応分の負担をしていただくと、多く出す人は。そうしないと、ごみの減量は中々非常に見通しできないんすかなと思います。以上です。</p>
会 長		<p>具体的な料金制度については、もうちょっと後の議論になるだろうと思います。一定量は無料だけども、それから出すものについては有料するという形もありますし。今〇〇委員がおっしゃったように、段階的に、量に応じて袋を変えて、その値段を変えていくという形で、多く出す人には多く取るとか、色々なやり方があるんだろうと思いますけども、それはまた後の話でという形になると思います。</p> <p>そういう面から言うと、どうもそういうごみを減量化していく、あるいはリ</p>

		<p>サイクルをしていくという形の中で、どうしてもやっぱり資金的な財源が必要になってくる。それを何とか、そういう形でできるような事が可能であれば、つまり一般財源に入れないのでそういう事をすれば、もう少しインセンティブが働くくんではないかという事での議論だと思います。</p> <p>ただ、容リ法、今改正案が出てますけども、今一生懸命やってて、恐らく12月までにまとめなくちゃいけないという立場に立たされてるんですけども、何せ色んな人が勝手な事を言いまして中々収束しないので、どこをまとめるという形にしなくてはいけないのか、ちょっとまだ。少々とも意見の摺り合いをやってませんので、中々先の形が見えないような気がしないでもないんですけども、まあ12月を目指してやるように。その中で木津川市は、容器包装リサイクル法の中で、容リ協との関連の中で契約をしているという形でリサイクル進められているのは、どんな品目になるんですかね。</p>
事務局		すみません。容器包装プラと、ガラスの分です。
会長		ん、ガラスと。
事務局		ごめんなさい、それとペットボトルです。その3品目になります。
会長		ガラスとペットと。
事務局		はい、ガラスとペットと容器包装。
会長		容器包装というのは。
事務局		容器包装、プラの容器包装です。
会長		プラですね。
事務局		はい。
会長		プラスチック容器ですね。
事務局		はい。
会長		分かりました。そうすると、ペットは最近はもう有料化になって、逆有償から有償になってますので、還元されてきますね。リサイクル、ペットは、そういう面から言うと、容リ法にきちんとリサイクルを頼めばお金が貰えると、売却という形になると思います。それからプラは、これは一番大きな問題で、恐らく今回の一つの改正の中で、大きく変わる部分になるだろうと思います。そういう中でやられている訳で、ただプラの場合、先程おっしゃったあれから言うと、品質から言うと今容リ協は、木津川市はAランク、Bランク。
事務局		ずっとAでございます。
会長		Aですね。Aだと、これは極めて優秀な分別、言い換えると汚れたものは入れないという形でなされているという事ですので、基本的にはそういう面から言うと、きちんとした出し方をしてるという事で評価してよろしいですかね。
事務局		はい。

	委 員	選別はしてるんですよね。
	事 務 局	選別は一部してますけれども、綺麗に出されているという評価を頂いております。
	会 長	<p>なるほど。はい、分かりました。</p> <p>そういう面から言うと、基本的にリサイクルの方は進んでいる、協力が得られているという事だろうという気がします。</p> <p>だから、そういう面から言うと、その他プラも全てこれは家庭回収が主体なんですね。家庭から別個、曜日を分けて。一つ、今方向性として出てきているのは、所謂事業者、特にスーパーであるとかそういう所が店頭回収をし始めているんですね。それを一つのルートとして認めていこうと。そして、そこはどうなるか分かりませんけども、業者がそれで引き取っていくという形であれば。ただ問題は、その後が法律的な問題がありまして、基本的に業者が集めてしまうと、これは産業廃棄物なんですね。という形になりますので、その所を何とか、例えば一番分かりやすいのが名古屋市なんですが、名古屋市なんかは店頭回収を主にして、市が集めてません。ところが、名古屋市でそれをやって、集めてたやつを、まあこれは市町村によって違うんですが、私は産業廃棄物と言ってますけど、一応産業廃棄物と言われてるんですけども、これを事業系のごみという形で考えられる事もあるんですね。そうすると名古屋市は、これ事業系のごみだと、事業系についてもこれ一般廃棄物だと、だから名古屋市が取るよと。だから、店頭回収で集めたものを全部名古屋市が集めて、それをペットボトルの場合には売ってしまう。そうすると、一生懸命店頭回収でスーパーは協力してんのに、さっきの話じゃないですけども、インセンティブ何もないじゃないかと、全部良いとこ取られてしまうと。だから、何とかそういう形から言うと、自分たちが集めたものをリサイクルしたら、自分たちのペットボトルだったら収入にして欲しいとの形での改正をしてくれたら、もっと店頭回収をしますよという形の問題が出てきて、そこをどうするかという事で。まあこれは環境調和型になりますので、廃棄物処理法の関連になります。その所が少し揉めてまして、そこがなされれば、問題は少しは前進するだろうと。そうすると店頭回収というのがかなり大きな、と言うと、一般的に言われてますのは、木津川市では心配しないでもいいAランクになってますけども、普通の所では店頭回収の方が品質が良いんですよね。やっぱり、それだけ意識の高い人たちがスーパーに持っていきますから。そういう面で好まれるという事もあって、そういう観点からも少し、複数の回収のルートを作ろうというのは、審議会での一応の議論の方向だと思いますので、そういう方向を受けた上で国がどういう最終的な報告をするかどうか分かりませんけども。そういう面での自治体の協力はどうなっているのか、そこいらをちょっと教えていただけたらなと思います。基本的にそういう面から言うと、全て市が関与しながらやっていくという形をやられるのかどうかですね。どう思われます、行政は。なければ、どうも。</p> <p>そしたらもう少し、さらにインセンティブの問題は、これは具体的な問題を考えながらやっていなければいけないと思いますので、これで今回で終わりということにはなりませんので、あくまでも我々はそういう面から言うと、「もったいないプラン」をさらにインセンティブをかけて、より効果のあるものにしようという事ですので、またさらなる議論をしていきたいと思います。</p> <p>それで最後になりますけども、一応の議論は終わって、この2つの、前の時に市は頑張ってるのかとか、今の状況はどうなってるんだという事で、2つの報告書をいただいてます。それで市としては、自分の所で良くできているのかどうか分かりませんけど、評価をしてますけども、この評価ちょっと違うんじ</p>

		やないのかという事がありましたら、また事務局の方に意見を言っていただくという事で。要領良く、このごみ減量化推進計画と、それから直接には関係ございませんけども、職員が頑張っているという事で、温暖化対策の実行計画の減量の取組みについての資料が出てますので、手短にお話を頂けたらありがたいと思います。よろしくお願ひします。
事務局	事務局説明省略 (報告1:木津川市ごみ減量化推進計画(もったいないプラン)取組状況報告) (報告2:木津川市地球温暖化対策実行計画取組状況報告)	
会長	はい。ありがとうございます。 これは報告という事でございますけども、基本的にこの審議会で報告をして、了承を得た上で公表するという事になってますので、そういう面から言いますと、それぞれお持ち帰りをいただきて、ご意見のある所については、是非とも事務局の方へお寄せをいただけたらと思います。一応、公表する予定日というのは、大体どの位を目指されているのですか。	
事務局	失礼します。まことに次第ということで、公表して参りたいんですが、今年度もこの時期、下半期に入っておりますので、できるだけ…	
会長	と言うのは、何を聞いているかって、我々がいつまでに意見を言わなくちゃいけないかという事を聞きたかったんで。そういう面から言うと、是非とも、1週間、2週間は良いの? それとも10月いっぱいのご意見を受け付ける?	
事務局	結構です。10月中旬にまとめさせていただけたら、非常にありがとうございます。	
会長	一応、今リサイクル月間ですので、10月は。そういう面から言うと、10月中旬の発表を目指してという事で、できるだけ早くご意見がある方は市の方へ申し出させていただいて、10月いっぱい公表して、という形でご協力の方よろしくお願ひしたいと思います。 他に皆さん方、何かご意見なり質問なりがあればあれですけども、無ければこれで終わりたいと思いますけども。	
委員	はい、どうぞ。	
会長	先の話なんですね、クリーンセンターは28年度の稼働という事になりますよね。これは、ごみの分別の方向はとりあえずややこしいですか、反対になるんですか。そういう事は分かってませんかな。どうでございます。	
事務局	はい、どうぞ。	
会長	分別につきまして、まだ確たるもののは決定いたしませんけども、基本的に変わらずに思ってます。今回のクリーンセンターにつきまして、燃やごみ、可燃物について燃やしていくという事ですので、大きく変わるという事はないと思っておりますけども、収集形態によっては若干変化は出てくるかも分かりません。ただ、市民生活にかかる事になってきますので、分別なり収集形態が変わるような事であれば、早い目早い目の周知・説明をさせていただきたいという風に思います。以上でございます。	
会長	はい、ありがとうございます。はい、○○委員。	
委員	先程議長からありました容包関係、実は昨日・一昨日と東京に行って、都内	

		<p>の渋谷、その住民の人と色々話していたら、最近渋谷では所謂ペットボトル容器だけ、これを綺麗に洗浄してそれだけ集める。後はみんな燃やしてしまう。そういう風な方向ですので、木津川市の方もそういう事は少し頭に入れながら、計画されていった方がいいんじゃないかなと。あんまり選別にお金を掛け過ぎなんですね、もう日本中が。これは大きな無駄です。それは所謂行政が直接回収しますので、名古屋方式とはちょっと違うという形になります。どうも、そういう風な流れになりそうなんで。</p> <p>会長 はい。ありがとうございます。 そしたら最後に、次回の予定について、スケジュール等についてありましたら、それをもって閉会にしたいと思います。</p> <p>事務局(進行) はい。ありがとうございます。 本当に慎重なご審議頂きまして、本当にありがとうございました。それでは議題のその他の所で、次回の日程という事でございます。次回につきましては、来年27年の2月の13日金曜日の午後2時からという事でお願いをしたいという風に考えておりますので、よろしくお願ひを申し上げます。 それでは、ありがとうございました。最後になりますが、生活環境部長から一言、閉会のご挨拶をさせていただきます。</p> <p>事務局(進行) 本日の議事につきましては、全て終了いたしました。郡鳴会長におかれましては、スムーズな議事進行、ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては、活発なご意見を賜りまして、慎重審議ありがとうございました。これで終わらせていただきます。ありがとうございます。</p> <p>会長 それでは、2月にはまたよろしくお願ひします。どうもありがとうございました。</p>
その他 特記事項		以上
署名欄		<p>木津川市廃棄物減量等推進審議会 議長 </p> <p></p>